

平成 28 年 6 月 29 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
(コード番号 : 8303 東証第一部)

男性社員のお小遣いは過去 3 番目に低い金額
-「2016 年サラリーマンのお小遣い調査」結果について
～男性社員のお小遣い額は 37,873 円(前年比 231 円の微増)、前年とほぼ同水準～

当行は、20 代から 50 代の有職者の男女約 2,300 名を対象にした「2016 年サラリーマンのお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

「2016 年サラリーマンのお小遣い調査」結果の主なポイント

- 男性社員のお小遣い額は 37,873 円(前年比 231 円の微増)と、前年とほぼ同水準。1979 年の調査開始以来、過去 3 番目に低い金額(最低額は 1982 年の 34,100 円)。
- 男性社員の昼食代は前年比 14 円減少の 587 円と、前年とほぼ同水準。
- 男性社員の 1 回の飲み代は 5,102 円と、自宅で飲む方の 2,734 円より 2,000 円以上高い結果に。
- 女性社員のお小遣い額は、前年比 966 円減少し、33,502 円。
- 消費税率 8%への引き上げから 2 年経過するものの、増税への負担を感じる人は、男性社員で 74.4%、女性社員で 82.5%。

■ **お小遣い額は過去 3 番目に低い金額**

男性社員の毎月のお小遣い額は前年比 231 円微増の 37,873 円と、前年とほぼ同水準、1979 年の調査開始以降 3 番目に低い金額となりました(最低額は 1982 年の 34,100 円)。子どもがいると答えた男性社員について子どもの学齢別にみると、社会人のみの世帯が 4 万円を超えている一方、未就学児/小学生世帯、中高生のみ世帯では 3 万円を下回っており、子育て・教育費の家計への負担が読み取れる結果となりました。
女性社員のお小遣い額は前年比 966 円減少し、33,502 円となりました。

■ **昼食代は前年とほぼ同水準**

男性社員の 1 日の平均昼食代は、前年比 14 円減少の 587 円となり、前年とほぼ同水準となりました。年代別では、30 代・40 代が 600 円を越える一方で、昨年最も高かった 20 代の昼食代が 528 円へと 174 円減少しています。女性社員の昼食代は前年比 8 円微増の 674 円となり、こちらも前年とほぼ同水準となりました。

■ **男性社員の 1 回の飲み代は、外に飲みに行く方が 5,102 円、自宅で飲む方が 2,734 円**

男性社員の 1 回の飲み代は 5,102 円と、自宅で飲む方の 2,734 円より 2,000 円以上高い結果になりました。1 ヶ月の平均飲み回数は、2.3 回と前年とほぼ同様、1 回の飲み代と 1 ヶ月の平均飲み回数から算出した 1 ヶ月の飲み代は前年比 50 円増加の 11,765 円となりました。
女性社員の 1 回の飲み代は 3,915 円、自宅で飲む方は 2,450 円となりました。

■ **消費税率 8%への引き上げから 2 年経過するものの、引き続き高い負担感**

2014 年 4 月の消費税率 8%への引き上げから 2 年が経過しましたが、男性社員では、負担に感じている層が 74.4%、女性社員では 82.5%と、負担感は昨年引き続き高い水準となりました。昨年に続いて物価の上昇が家計を圧迫するのを背景に、なお厳しいお財布事情が明らかになる結果となりました。

本調査の詳しい調査結果については、別添「2016 年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

以上

2016年
サラリーマンのお小遣い調査
詳細レポート

2016年 サラリーマンのお小遣い調査概要

景気は回復基調が維持されているものの、
男性会社員のお小遣い額は過去3番目に低い金額
ランチ代は587円と前年より微減

- 景気は回復基調が維持されているものの、家計においては賃金の伸びが穏やかなものに留まるとの見通しなどを反映し、男性会社員の平均お小遣い額は37,873円と、前年とほぼ同水準(前年比231円の微増)。1979年の調査開始以来、過去3番目に低い金額(最低額は1982年の34,100円)。20代は前年比2,714円増加の40,879円となり、逆に30代・40代はやや減少し3万円台半ばとなり、20代と40代では5千円以上の格差となった。
- 男性会社員の1日の昼食代は前年比14円減少し、587円と、前年とほぼ同水準。
- 男性会社員の1回の飲み代は5,102円と、自宅で飲む方の2,734円より2,000円以上高い結果に。
- 女性会社員の平均お小遣い額は、前年比966円減少し、33,502円。一方、20代は前年比2,305円増加の38,220円となり、男性会社員50代とほぼ同水準。昼食代は前年比8円増加の674円。1回あたりの飲み代は3,915円と、自宅で飲む方の2,450円と金額にひらきがある。いずれも男性会社員と同じ傾向。
- 消費税率8%への引き上げから2年が経過するが、増税への負担を感じる人は、前年より微減しているものの、男性会社員で74.4%(2015年は78.2%)、女性会社員で82.5%(2015年は84.9%)と、依然として負担を感じている層が多い。

<2016年調査結果について>

■ 2015年度の景況

日経平均株価は好調な企業業績を受けて2015年4月から6月にかけて上昇基調が続き、約15年ぶりに2万円台に回復し、好調なスタートを切った2015年度。しかし、中国経済の減速など世界経済の不透明感を背景に下落し、2016年2月には15,000円台を割り込み、2016年3月末の終値は16,758円67銭(2015年3月末比約2,450円の下落)となりました。

2016年1月末の金融政策決定会合において、日本銀行はマイナス金利政策導入を決定しましたが、新興国経済の減速など国際金融市場における不安材料も影響して、為替相場では円高・ドル安が加速する結果となりました。想定外に円高が進んだことで、輸出企業を中心に企業収益の改善が懸念される年度末となりました。

しかしながら東証一部上場企業の2016年3月期決算の集計によると、年度当初からの円安と原油安に影響を受けた産業を中心に好決算となり、営業利益は前期比で10.6%を上回る33兆3,700億円となる見通しとなりました。企業業績の好調を反映してか、厚生労働省が発表した「平成27年 賃金構造基本統計調査」によると、一般労働者の月額賃金は男性335,100円(前年比1.7%増)、女性242,000円(同1.7%増)となり、男女ともに前年を上回り、特に女性の賃金は過去最高となりました。一方で厚生労働省発表の「毎月勤労統計調査」によると、2015年度の実質賃金指数は前年度比で0.1%の下落となり、3.0%の下落となった2014年度からマイナス幅が大幅に縮小しました。

また、2016年度の賃金の見通しとしては、2016年春闘の中間集計結果(2016年5月9日時点)によると、基本給を底上げするベースアップ(ベア)実施額は、1,729組合の賃上げ額平均で1,328円となり(引き上げ率は0.49%)、前年同時期の実施額と率(賃上げ額2,037円、引き上げ率0.67%)よりは減少したものの、3年連続で賃金が引き上げられた結果となりました。このことから引き続き2016年度もサラリーマンの賃金自体は緩やかな上昇が見込めるものと考えられます。

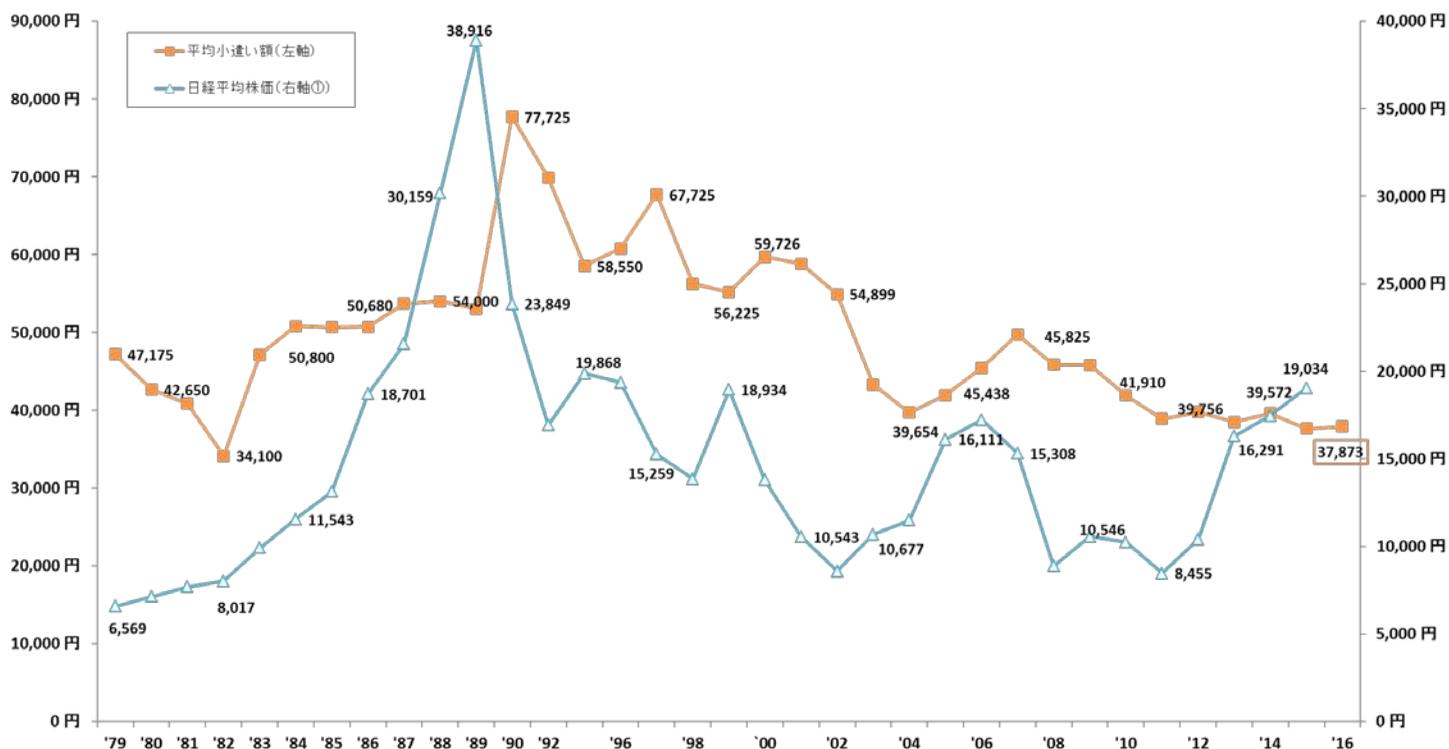
■ 2016年サラリーマンのお小遣い調査

2015年の「サラリーマンのお小遣い調査」では、男性会社員のお小遣いが前年の37,642円から231円増加して37,873円となりましたが、1979年の調査開始以来、過去3番目に低い金額(最低額は1982年の34,100円)となりました。年代別にみると、20代は、昨年より2,714円増加して4万円を超えましたが、30代・40代は昨年よりやや減少し、3万円台半ばとなりました。女性会社員のお小遣い額は、昨年より966円減少し、33,502円となりました。

年代別に見ると男性会社員同様に、20代は2,305円増加していますが、30代から50代までは昨年より減少しています。男女ともに20代のお小遣いが大きく上昇しましたが、30代から50代までは減少または横ばいという結果になりました。ライフステージ別では、未婚、DINKS世帯(既婚・子どもなし、共働き)の男性会社員のお小遣いが最も高く、ともに4万円を超えています。一方で、既婚・子どもあり世帯の男性会社員は3万円前半と未婚、DINKS世帯とは1万円程度の差があり、養育・教育費への家計への負担感が読み取れる結果となりました。

今回の調査では、昨年に続いて物価の上昇が家計を圧迫するのを背景に、お小遣い額は依然として低い水準となりました。増税による負担感も昨年とほぼ同水準で、男性・女性会社員ともに7割以上が負担を感じている(「大変負担を感じている」と「少し負担を感じている」の合計)」と回答し、なお厳しいお財布事情が明らかになる結果となりました。

日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移 (1979年～2016年)



- 1978年以前と、1991年および1993年、1994年については調査を実施していません。
- グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

【1】サラリーマンのお小遣い

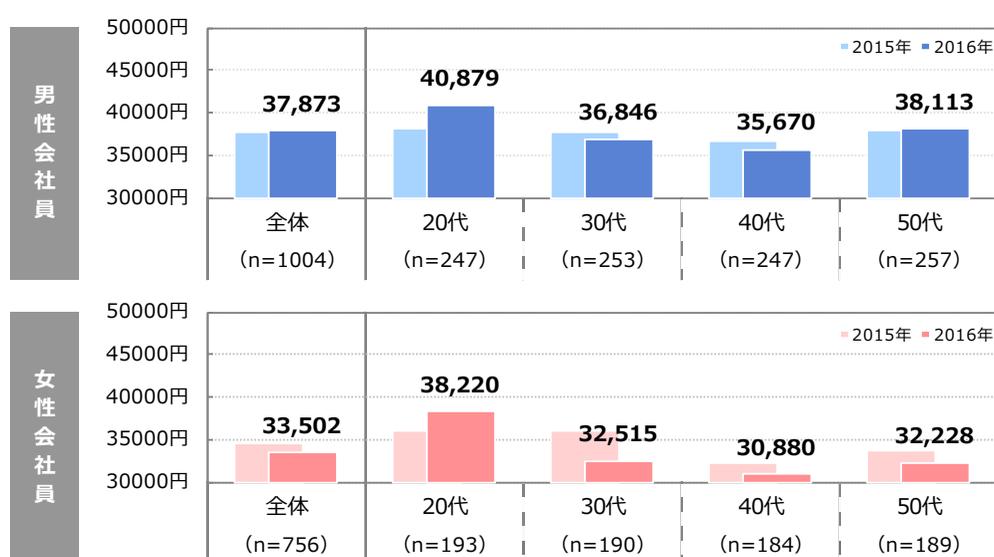
- 男性社員の平均お小遣い額は37,873円と前年比231円微増で前年とほぼ同水準、過去3番目に低い金額
- 20代は前年より2,714円増加し、4万円を超える水準に
- 一方、30代・40代は前年よりやや減少し、40代は20代と比較し5,000円以上低い
- 未婚者が最も高く4万円半ばを超え、既婚者でもDINKS世帯(既婚・子どもなし、共働き)では4万円を超えるが、子どもがいる世帯は3万円前後にまで下がる傾向に
- 女性社員は前年から微減し33,502円。男性社員より4,371円低い

■ 月の平均お小遣い額

男性社員の月の平均お小遣い額は、昨年の37,642円から231円微増の37,873円となりました。昨年とほぼ同じ水準となり、1979年の調査開始以降、過去3番目に低い金額です(最低額は1982年の34,100円)。年代別にみると、20代は昨年より2,714円増加して4万円を超えたものの、30代・40代は昨年からやや減少し、3万円台半ばとなりました。

女性社員については、お小遣い額は昨年より966円減少し、33,502円となりました。年代別にみると、20代は昨年より2,305円増加していますが、30代から50代は、昨年より減少しています。

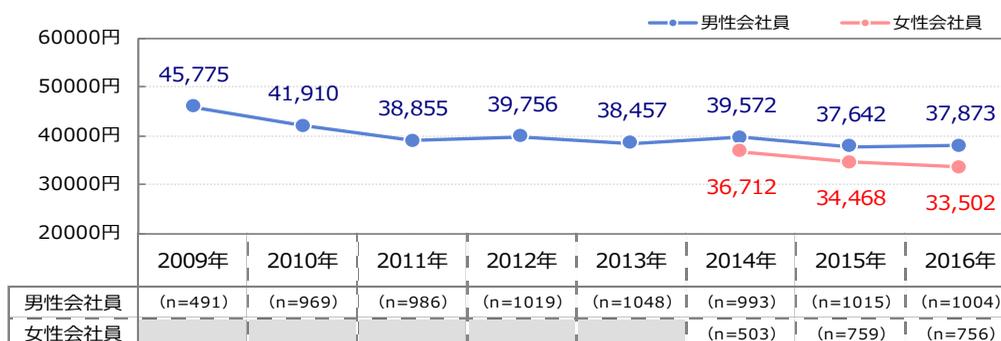
設問：あなたの一ヶ月の“お小遣い”はいくらですか？(昼食代含む)



男性社員における近年のお小遣い額の推移は、減少傾向が2011年で下げ止まり、以降は3万円台後半を維持しています。2016年は昨年より231円増加しましたが、マクロ的な視点で見ると大きな変化がないと捉えられます。

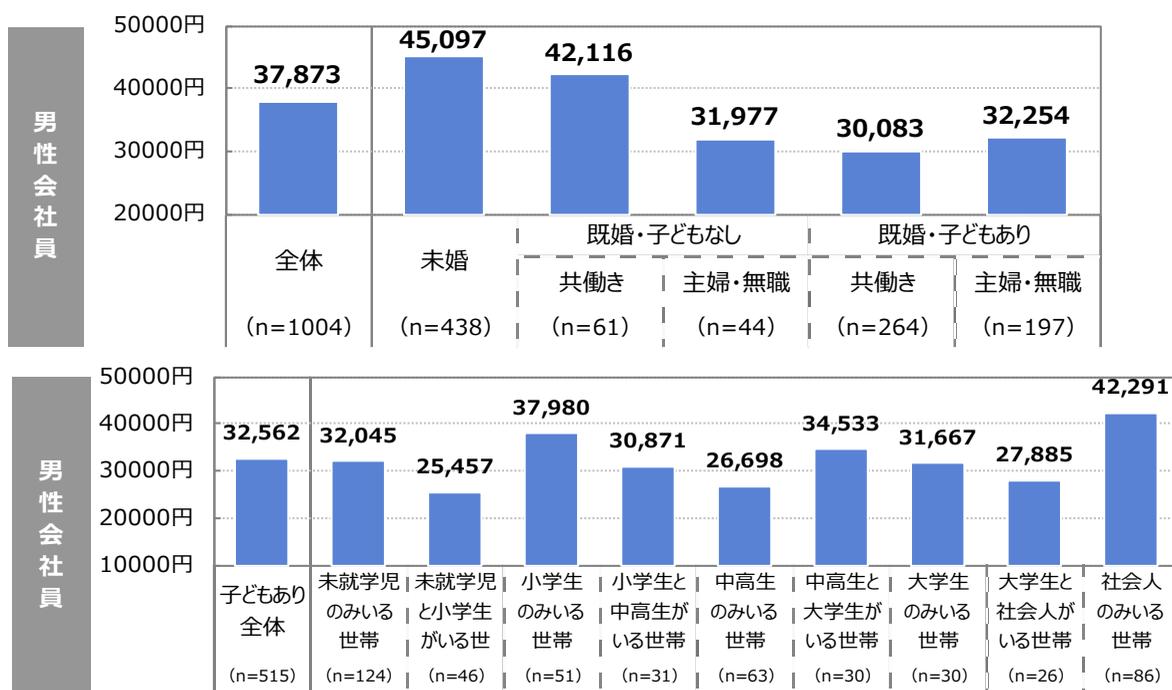
女性社員については、直近3年間は減少傾向となっており、男性社員と傾向が異なっています。

■ 平均お小遣い額の時系列推移(2009年～2016年)



男性会社員の平均お小遣い額をライフステージ別にみると、未婚者・DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)では4万円を超えています。一方、子どもなし・専業主婦世帯や子どもあり世帯は3万円前半と、1万円程度の開きがみられます。

また、子どもの学齢別にみると、社会人のみの世帯が4万円を超えている一方、未就学児/小学生世帯、中高生のみ世帯では3万円を下回っており、子育て・教育費の家計への負担が読み取れる結果となりました。



※n=30未満は参考値として掲載

■ 配偶者のお小遣い額

2016年から、配偶者の月の平均お小遣い額の調査も追加しました。男性会社員の配偶者のお小遣い額は、26,001円となっています。年代別の差もあまりみられませんでした。一方、女性会社員の配偶者のお小遣い額は、39,223円となっており、前頁の男性会社員のお小遣い額と比べて1,350円高い結果となっています。また年代別にみると、年配の方ほどお小遣い額が高くなっていく傾向がみられます。

設問：配偶者の一カ月の“お小遣い”はいくらですか？(昼食代含む)

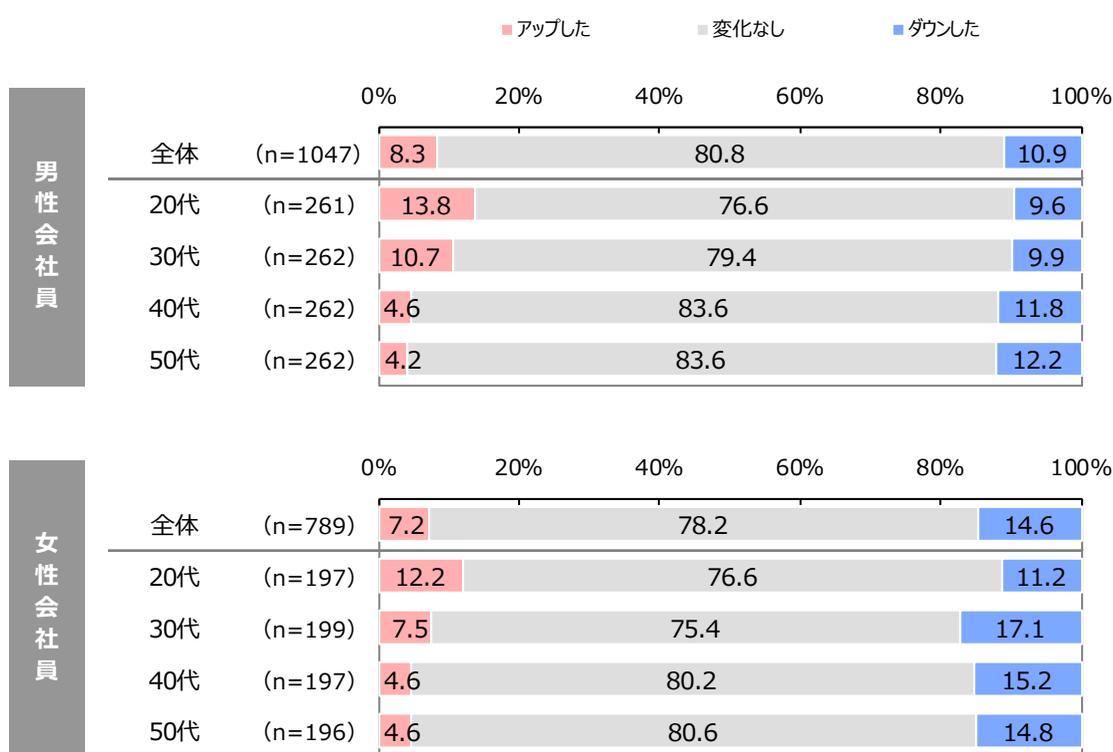


■ お小遣い額の変化

男性会社員では、この1年でお小遣い額に変化があった方は限定的で、多くの方が「変化なし」という結果でした。変化があった方では、「アップした」が8.3%、「ダウンした」が10.9%と、減額された方の割合が高くなっています。年代別にみると、若年の方ほど「アップした」の割合が高まり、20代では13.8%に達しています。それに反比例し、「ダウンした」の割合は、年配の方ほど高くなる結果となりました。

女性会社員についても、多くの方が「変化なし」という結果は、男性会社員と同様です。また、「アップした」の割合が若年の方ほど高い点も、男性会社員と共通していますが、「ダウンした」の割合は30代が一番高くなっています。なお、「ダウンした」の割合は、男性よりもやや高い傾向となっています。

設問：この一年(2015年4月～2016年3月)の間に、あなたの“お小遣い”はどのように変化しましたか？

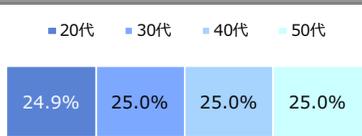
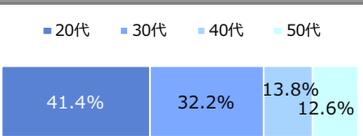
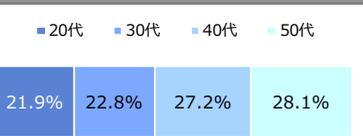
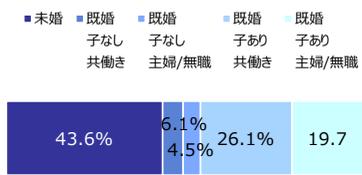
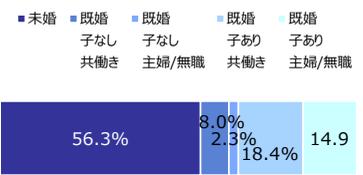
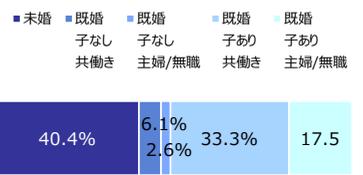
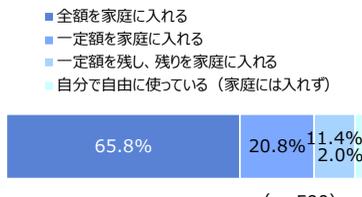
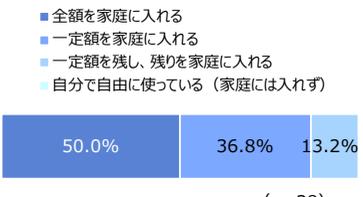
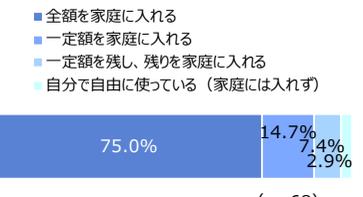


■ お小遣いに変化があった方のプロフィール

男性社員のこの1年でお小遣いがアップした方(8.3%)とダウンした方(10.9%)のプロフィールを、男性社員全体と比較したものが以下となります。ここから、お小遣いに変化があった方がどのような方なのかを確認します。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が41.4%を占め、やや若年層寄りの傾向がみられます。家族構成では未婚者が過半数を占め、年収では、個人年収・世帯年収ともに全体より高く、特に世帯年収は全体と92万円の開きがあります。子どもの学齢をみると、子どもがいない家庭が60.9%と全体より高く、子どもがいる家庭でも未就学児・小学生がボリュームゾーンとなっています。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は40代・50代が全体より高く、やや年配層寄りの傾向がみられます。また、子どもの学齢をみると、中高生が23.7%とボリュームゾーンになっている点が特徴的です。

	男性社員 全体 (n=1047)	お小遣いがアップした方 (n=87)	お小遣いがダウンした方 (n=114)
年齢			
年収	個人年収 506 万円 世帯年収 647 万円	個人年収 574 万円 世帯年収 739 万円	個人年収 423 万円 世帯年収 507 万円
家族構成			
給与管理状況 ※既婚者ベース			

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

女性社員では、この1年でお小遣いがアップした方は7.2%、ダウンした方は14.6%という結果になりました。(P8参照)

女性社員全体と比較して、プロフィールの特徴を見ると、まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が42.1%を占め、男性社員同様、若年層寄りの傾向がみられます。年収は、特に世帯年収で全体と136万円の開きがあります。家族構成の差はみられませんでした。子どもの学齢をみると、全体より小学生・中高生の割合が多くなっています。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は20代がやや少なく、世帯年収は全体より133万円低くなっています。子どもの学齢をみると、全体より未就学児の割合が多くなっています。また、給与管理状況も、全額を家庭に入れている方が全体より多くなっています。

	女性社員 全体 (n=789)	お小遣いがアップした方 (n=57)	お小遣いがダウンした方 (n=115)
年齢	<ul style="list-style-type: none"> 20代 25.0% 30代 25.2% 40代 25.0% 50代 24.8% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 42.1% 30代 26.3% 40代 15.8% 50代 15.8% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 19.1% 30代 29.6% 40代 26.1% 50代 25.2%
年収	個人年収 313 万円 世帯年収 583 万円	個人年収 353 万円 世帯年収 719 万円	個人年収 253 万円 世帯年収 450 万円
家族構成	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 62.7% 既婚 子なし 12.4% 既婚 子あり 24.8% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 57.9% 既婚 子なし 14.0% 既婚 子あり 28.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 60.0% 既婚 子なし 7.0% 既婚 子あり 33.0%
給与管理状況 ※既婚者ベース	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 38.4% 一定額を家庭に入れる 35.0% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 15.3% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 11.2% (n=294)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 4.2% 一定額を家庭に入れる 41.7% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 41.7% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 12.5% (n=24)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 52.2% 一定額を家庭に入れる 32.6% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 13.0% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 2.2% (n=46)

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

※n=30未満は参考値として掲載

【2】サラリーマンの昼食事情

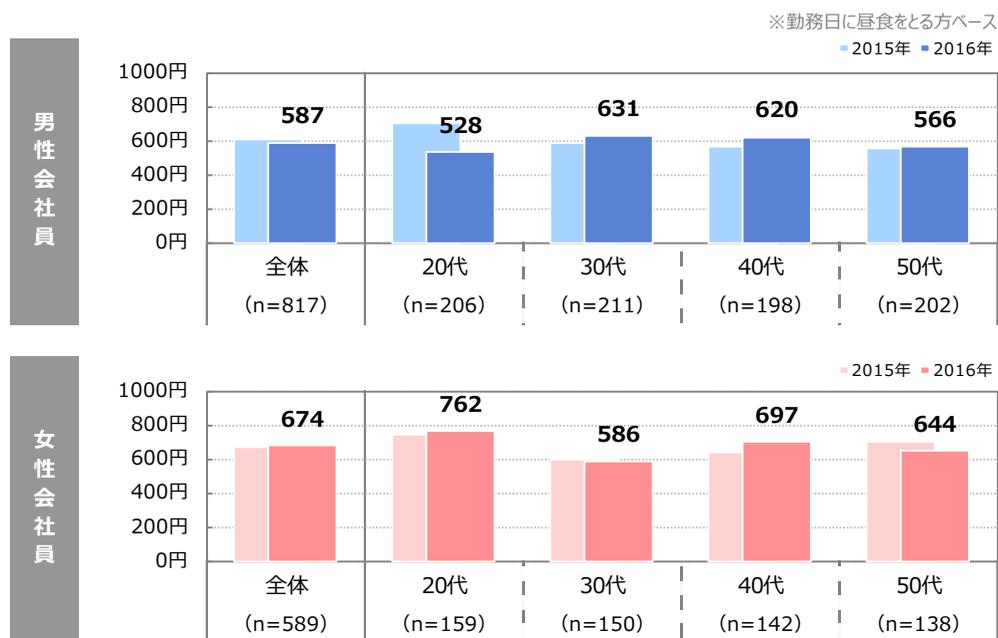
- 男性会社員の昼食代は587円、女性会社員の昼食代は674円と、いずれも前年とほぼ同水準
- 男性・女性会社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で3割半ば、女性で約半数を占める
- 昼食にかける平均時間では、男性会社員が21分に対し、女性会社員は30分と男性よりやや長い傾向

■ 一日の平均昼食代

男性会社員の一日の昼食代は、昨年の601円から14円減少し、587円となりました。年代別にみると、30代・40代が600円を越える一方で、昨年最も高かった20代の昼食代が528円へと174円減少しています。

女性会社員の一日の昼食代は、昨年の666円から8円増加し、674円となりました。年代別にみると、20代が762円で最も高くなっています。また、30代を除いて、男性よりも女性のほうが高い傾向がみられます。

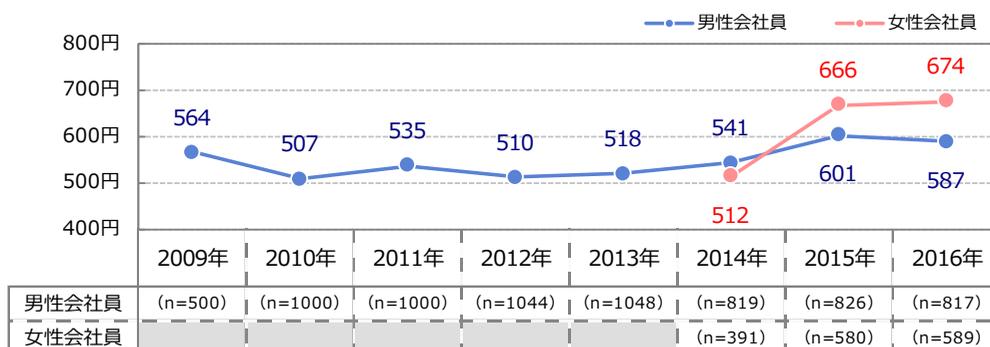
設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)



男性会社員における直近の昼食代の傾向は、2012年から上昇傾向にあったものの、今年は減少していますが、2009年以降、2番目に高い金額となっています。(最高額は2015年の601円)

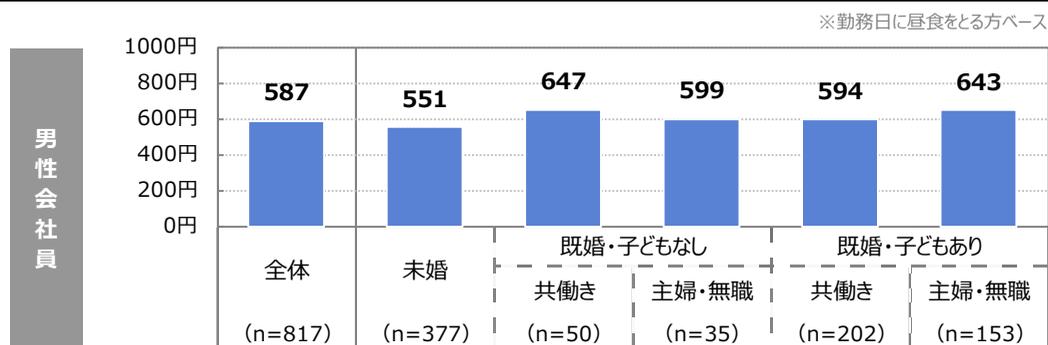
一方、女性会社員の平均昼食代は、2014年以降上昇傾向となっています。

■ 平均昼食代の時系列推移(2009年～2016年)



男性会社員の一日の昼食代をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)が最も高い金額となっています。ある程度収入もあり、配偶者も働いているため、昼食にかけられるお金に余裕があることがわかります。

設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)

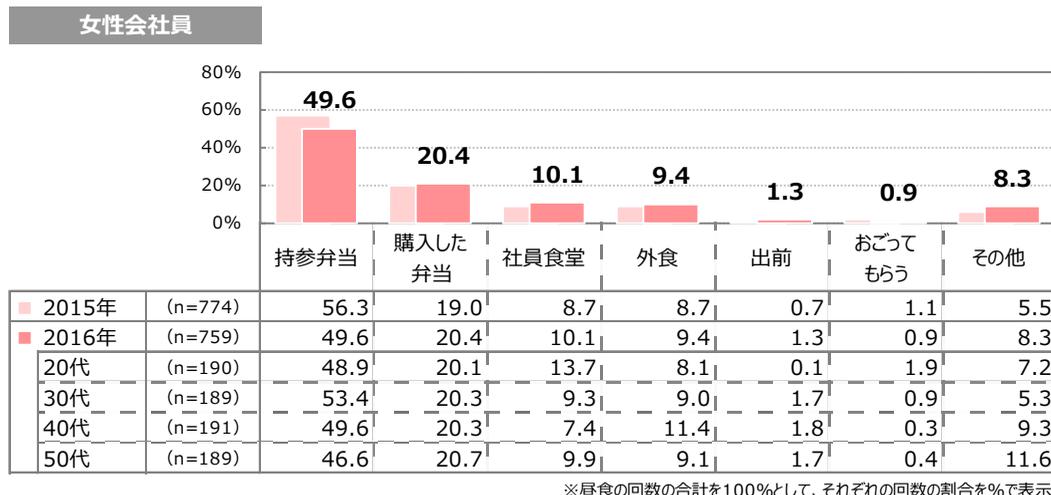
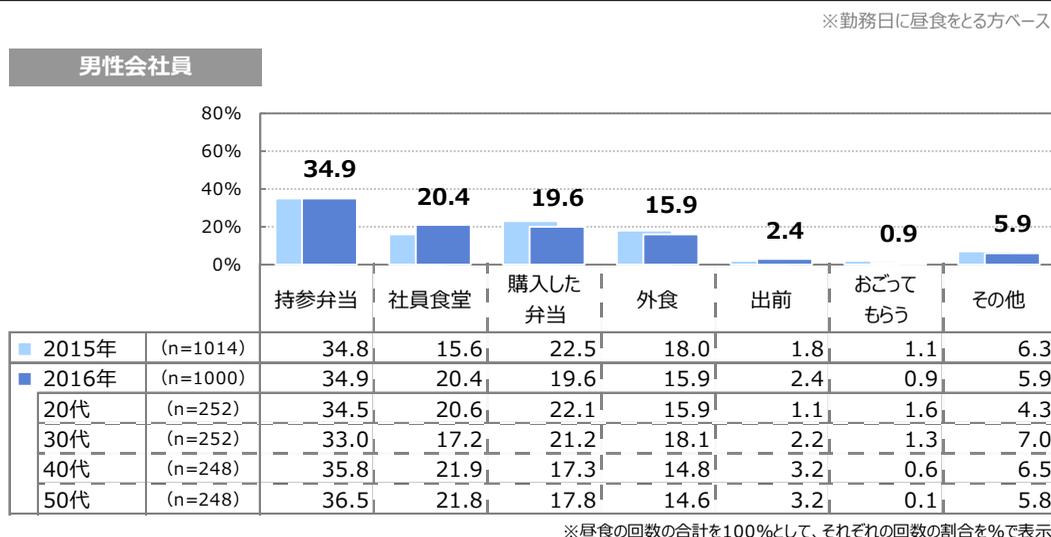


■ 昼食の内訳

男性会社員における、昼食の内訳トップ3は、「持参弁当」34.9%、「社員食堂」20.4%、「購入した弁当」19.6%の順で、昨年より「社員食堂」の割合が増加し、トップ2に順位が上がっています。

女性会社員では、昨年よりも減少したものの「持参弁当」が49.6%トップで、男性よりも15%高いことが特徴的です。また、「社員食堂」「外食」が男性よりも低いことから、お弁当で昼食を済ます傾向が強いことがわかります。

設問：あなたの平均的な一週間の昼食(勤務日)のそれぞれの回数の内訳を教えてください。

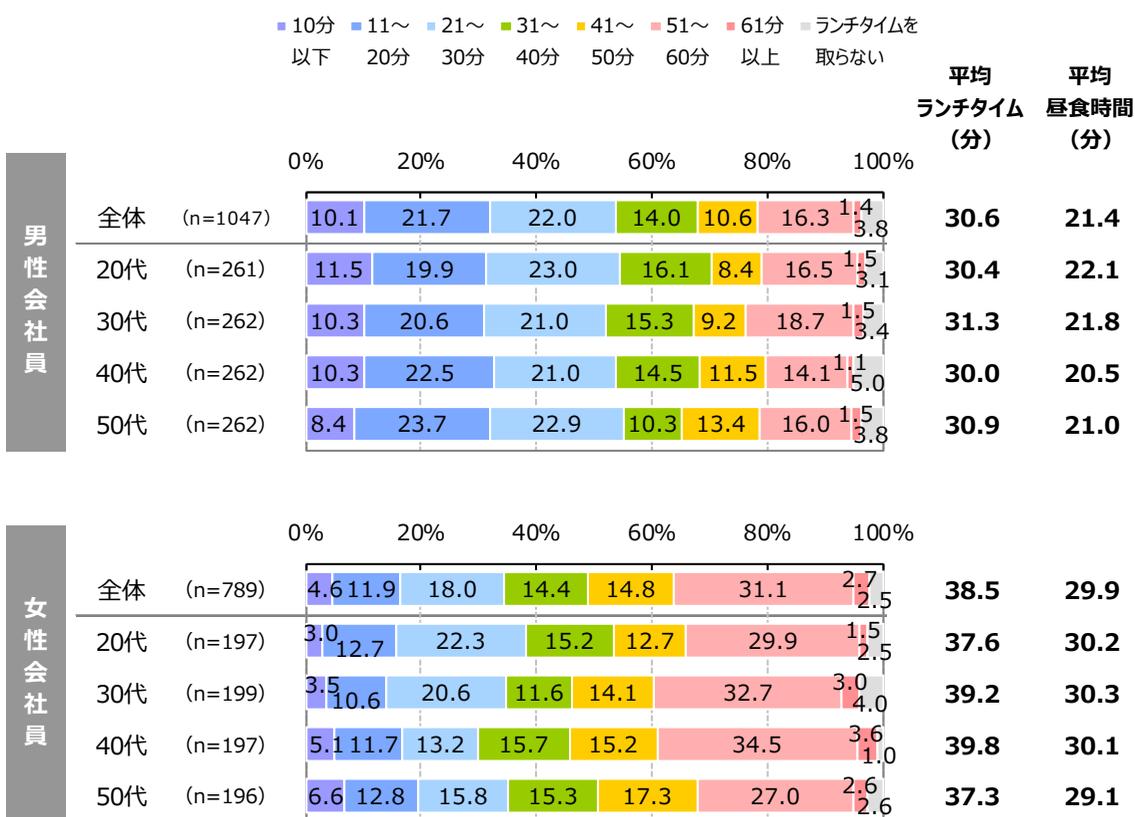


■ ランチタイムにかける時間

男性社員における、ランチタイム時間は平均30.6分、そのうち、昼食時間は平均21.4分となっています。回答時間が分散していることから、個々人でランチタイム時間にばらつきがあることがわかります。なお、年代による差はみられませんでした。

女性社員においては、「51～60分」が3割と多く、ランチタイム時間は平均38.5分、昼食時間は平均29.9分と、男性よりやや長い傾向がみられます。また、年代別にみると、30代・40代でややランチタイム時間が長くなっています。

設問：ランチタイム(昼食を含む勤務日のお昼休憩時間)にかける時間は平均して、どのくらいですか。
 昼食(勤務日)にかける時間は平均して、どのくらいですか。



■ ランチタイムの過ごし方

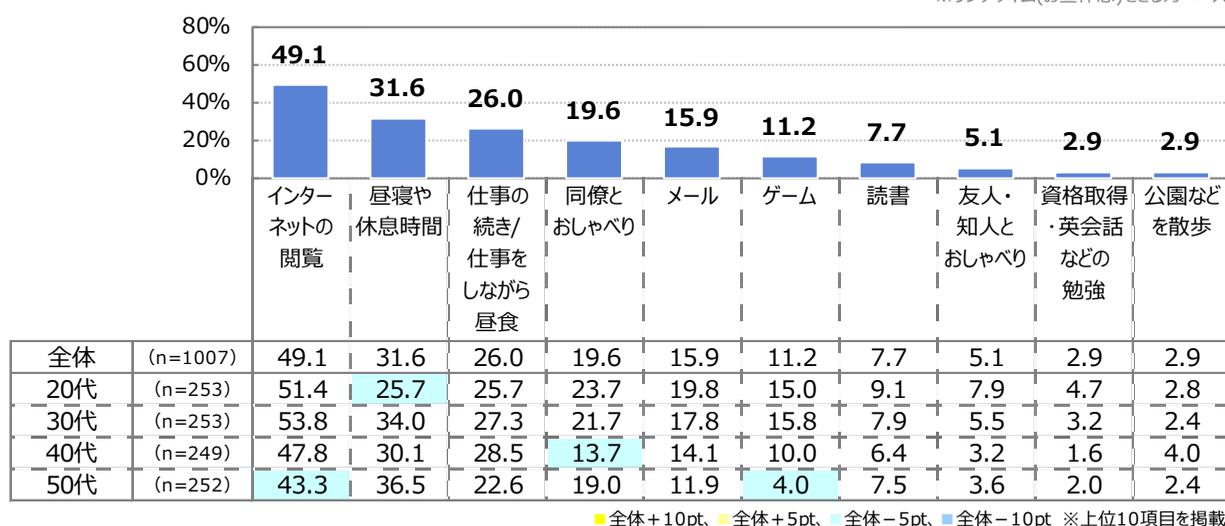
男性社員における、ランチタイムの過ごし方トップ3は、「インターネットの閲覧」49.1%、「昼寝や休憩時間」31.6%、「仕事の続き/仕事をしながら昼食」26.0%となっています。年代別にみると、50代は「インターネットの閲覧」、「ゲーム」がやや低くなっています。

女性社員においても、男性同様「インターネットの閲覧」54.2%がトップになっています。しかし、「同僚とおしゃべり」38.6%、「メール」29.6%が続いており、男性社員と比べて誰かと会話しながら過ごす傾向にあることがわかります。

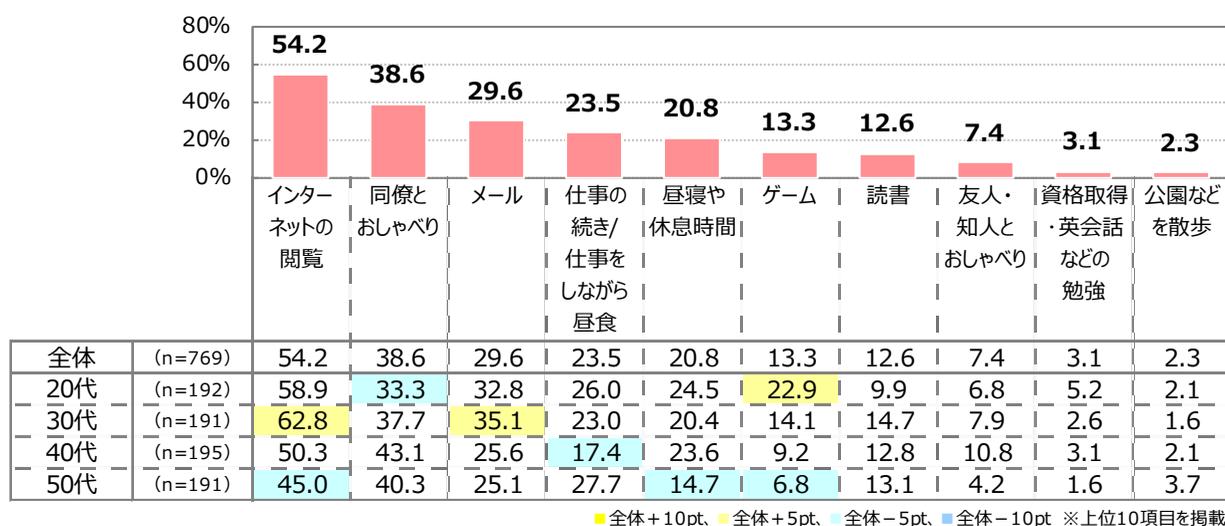
設問：あなたの「ランチタイムの過ごし方」として、あてはまるものを、全てお答えください。

男性社員

※ランチタイム(お昼休憩)をとる方ベース



女性社員



【3】サラリーマンの飲み事情

- 男性社員の1回の飲み代は、外に飲みに行く方が5,102円、自宅で飲む方が2,734円
- 女性社員の1回の飲み代は、外に飲みに行く方が3,915円、自宅で飲む方が2,450円
- 1カ月の飲み回数は、男性・女性社員ともに前年とほぼ同様で、男性は2.3回、女性は2.0回
- 1カ月の飲み代は、男性社員は前年より50円上昇し11,765円、逆に女性社員は901円減少し8,022円に(※全体ベース比較、18ページ参照)

■ 仕事後の飲酒状況と1回あたりの飲み代

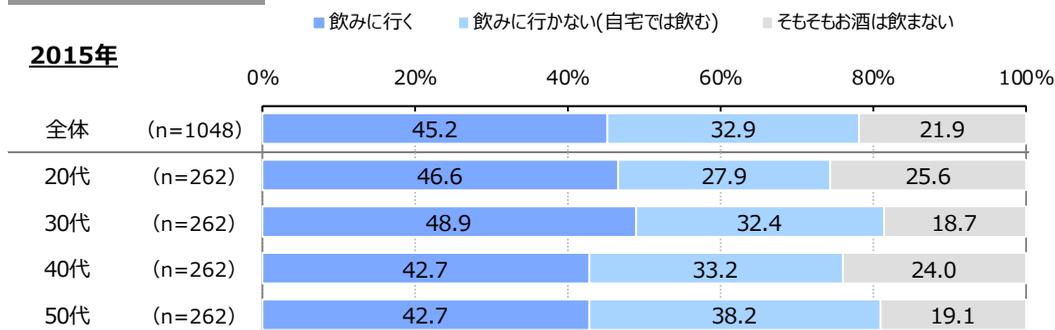
男性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が41.8%、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」が35.1%を占めており、飲酒している方は76.9%にのびります。昨年と比べて「飲みに行く」の割合が減少しており、40代・50代は「飲みに行く」から「飲みに行かない(自宅では飲む)」に行動が変化しています。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が2,000円以上高くなっています。外での飲み代は平均5,102円で、年代別にみると、50代が一番高くなっています。一方、自宅での飲み代は平均2,734円で、40代が最も高くなっています。

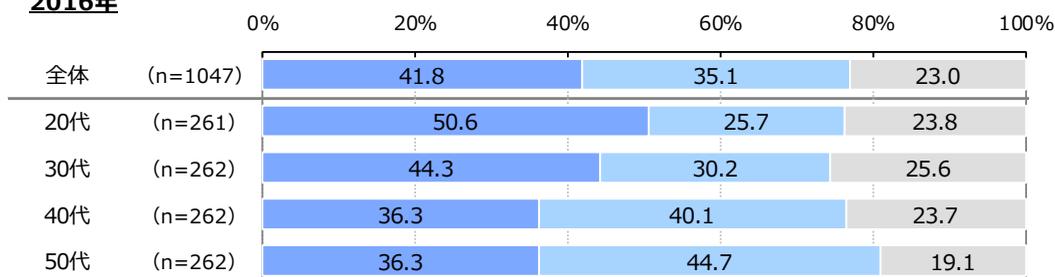
設問：仕事が終わった後、一月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

男性社員

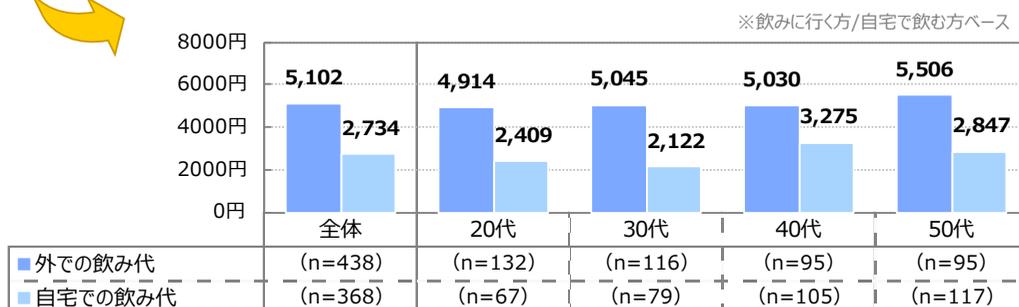
2015年



2016年

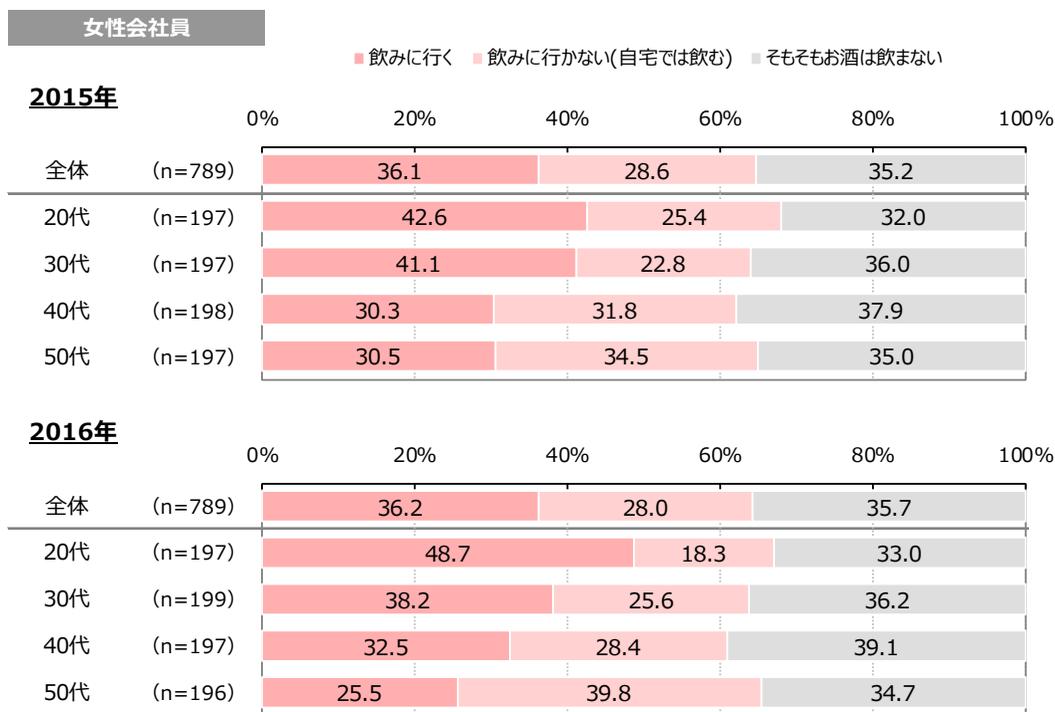


1回の平均飲み代は・・・？

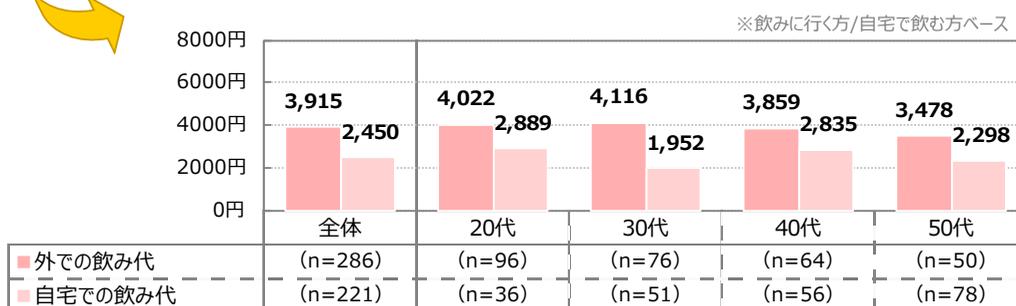


女性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が36.2%を占め、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」層も28.0%を占めており、飲酒している方は64.2%となっています。年代別に見ると、男性同様、若年ほど外に飲みに行く、年配ほど自宅で飲む割合が増えています。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が平均3,915円に対し、自宅での飲み代が平均2,450円と、1,500円近くの開きがみられます。また、男性社員と比べて、外での飲み代が1,000円以上低くなっている点が特徴的です。



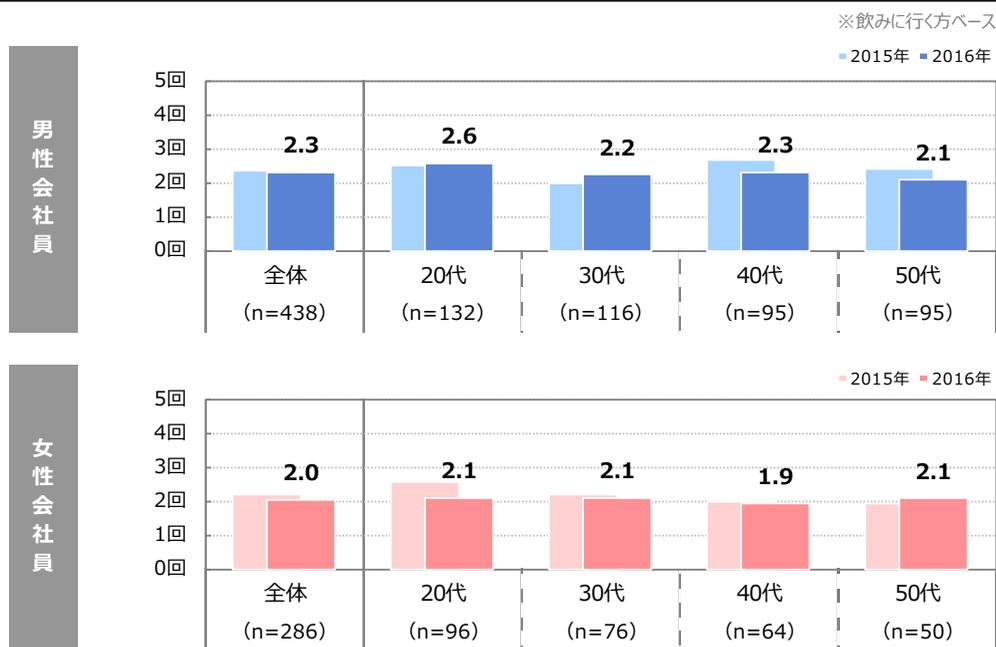
1回の平均飲み代は・・・？



■ 1カ月の飲み回数 ※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

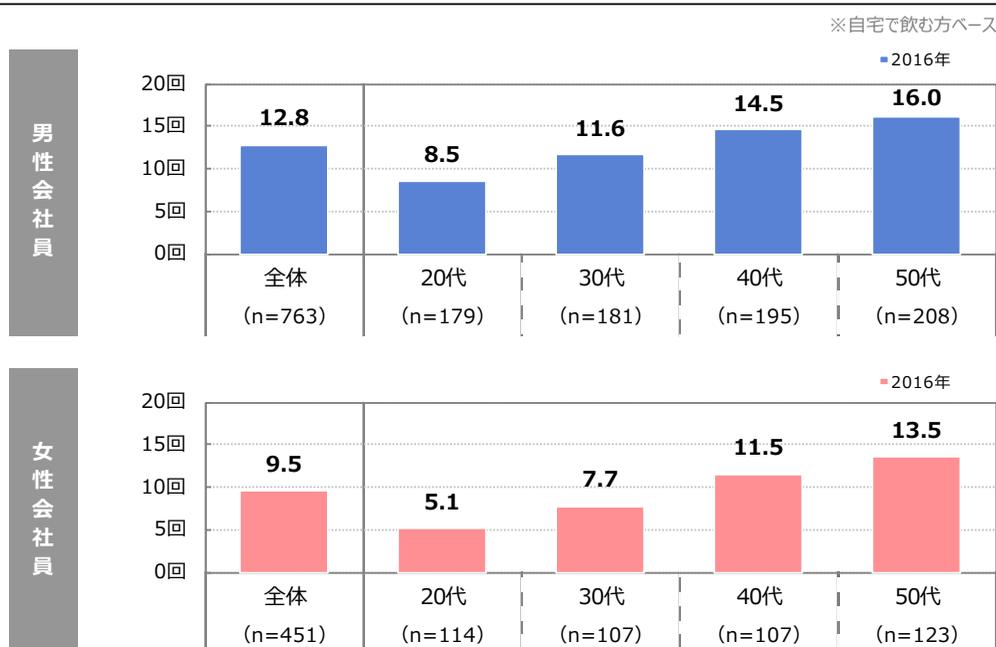
男性社員の1カ月の平均外飲み回数は、昨年より0.1回減り2.3回、女性社員は昨年より0.2回減り2.0回となりました。年代別にみると、男性社員では20代が2.6回と多くなっています。一方、女性社員は、昨年より20代の回数が減り、年代による差がなくなりました。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？



一方、1ヶ月の自宅での飲みの回数の平均は、男性社員が12.8回、女性社員が9.5回と男女ともに外飲みの回数を大幅に上回っています。年代別にみると、年配の方ほど自宅でも飲む回数が増える傾向がみられます。

設問：1ヶ月あたり平均何回くらい自宅でお酒を飲みますか？

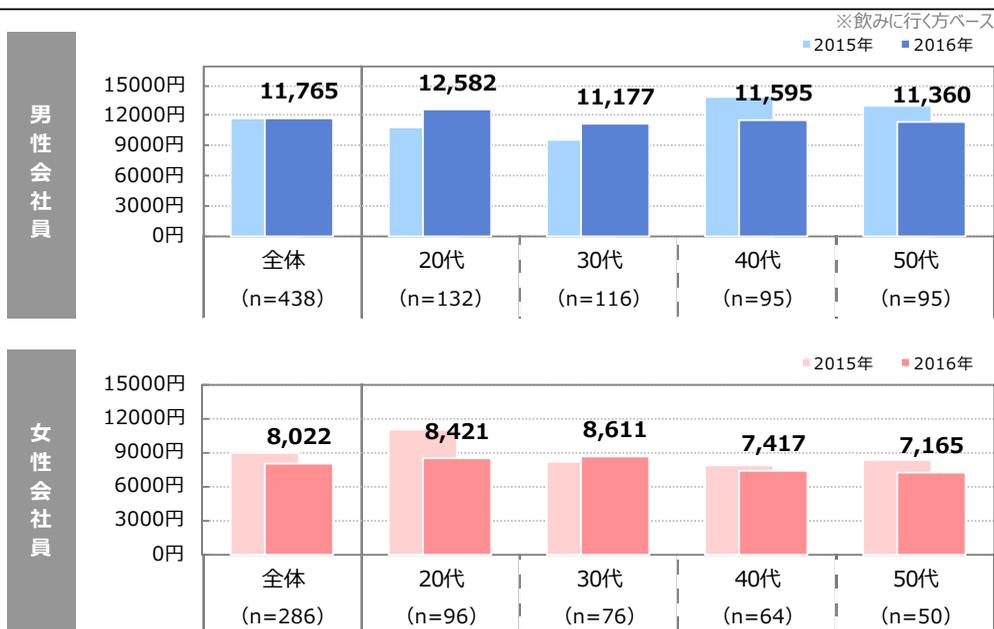


■ 1カ月の飲み代 ※飲みに行く方ベース

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した男性会社員の1カ月の飲み代は、昨年より50円増え、11,765円となりました。年代別にみると、20代・30代は昨年より増加し、40・50代は昨年より減少しています。

女性会社員は、男性会社員より3,743円低い8,022円という結果になりました。年代別にみると、20代で昨年より大幅に下がっている点が特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？



【4】消費税の負担感、経済的なゆとり

- ▶ 男性会社員では、消費税に負担を感じる人の割合が74.4%と昨年より3.8%減少する
- ▶ 女性会社員では、消費税に負担を感じている人の割合が男性会社員より8.1%高い82.5%
- ▶ 『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認した結果、男性・女性会社員ともに「ゆとりあり層」では20代が3割前後と他年代より高め、「ゆとりなし層」では30代から50代が2割後半と20代より高め

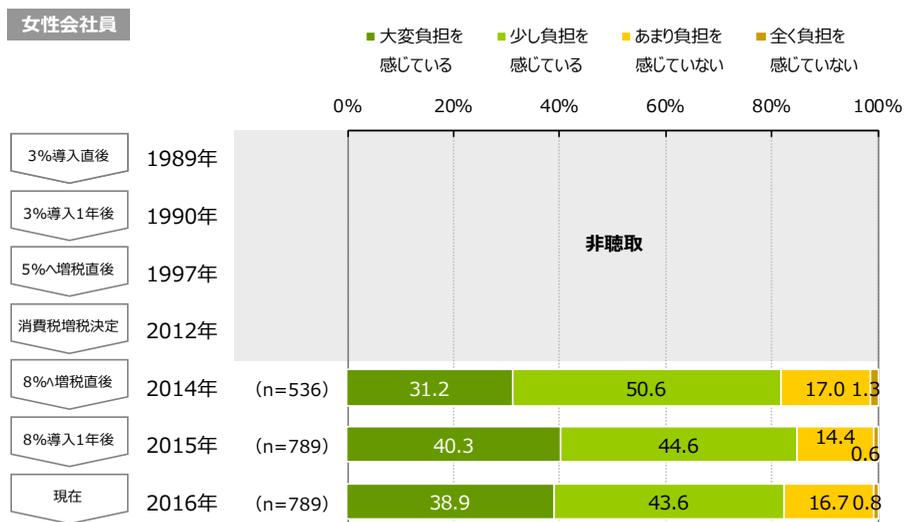
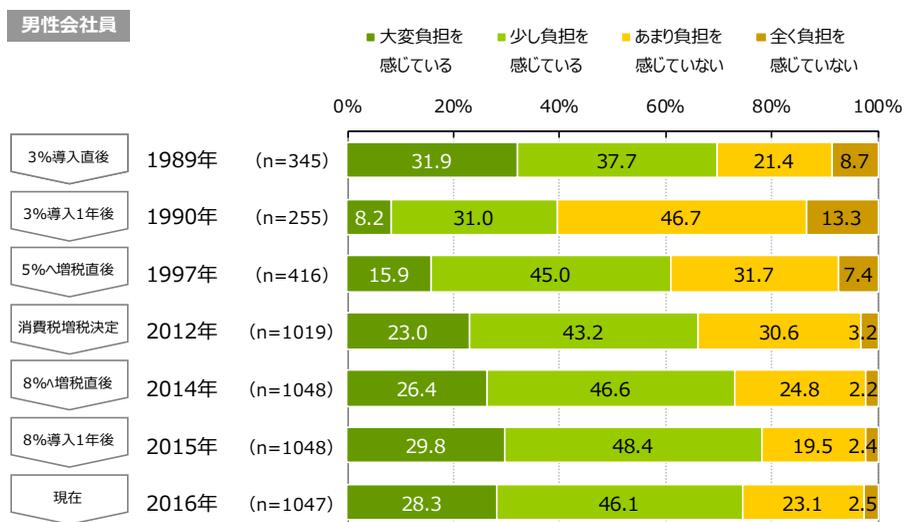
■ 消費税によるお小遣いの負担感

2014年4月1日より、消費税率が5%から8%に引き上げられました。増税から2年が経過した今回、お小遣い面での消費税における負担はどのように変化したのでしょうか。

男性会社員では、負担に感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が74.4%と、昨年より3.8%減少していますが、依然として高い水準となっています。

女性会社員では、負担に感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が82.5%と、昨年同様男性会社員よりも負担に感じている方が多いようです。

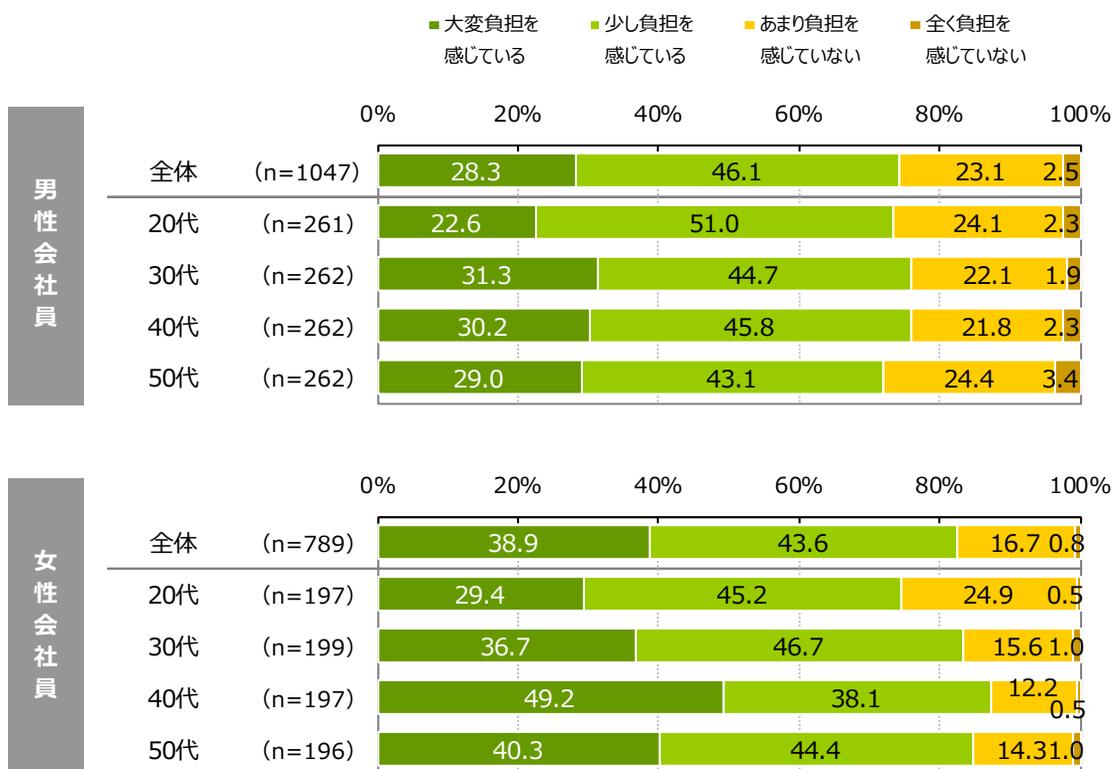
設問：あなたは、“お小遣い”の面で、消費税の負担を感じていますか。



男性社員における消費税の負担感を、年代別にみると、大変負担に感じている層は20代で低いものの、負担に感じている(「大変負担に感じている」+「少し負担に感じている」)層は年代であまり変わらない結果となっています。

女性社員では、「大変負担に感じている」層が40代で約半数に達しており、20代・30代より高くなっている点が特徴的です。また、男性社員よりも、女性社員のほうが負担に感じている層が多くなっています。

設問：あなたは、“お小遣い”の面で、消費税の負担を感じていますか。



■ 増税に向けての対策

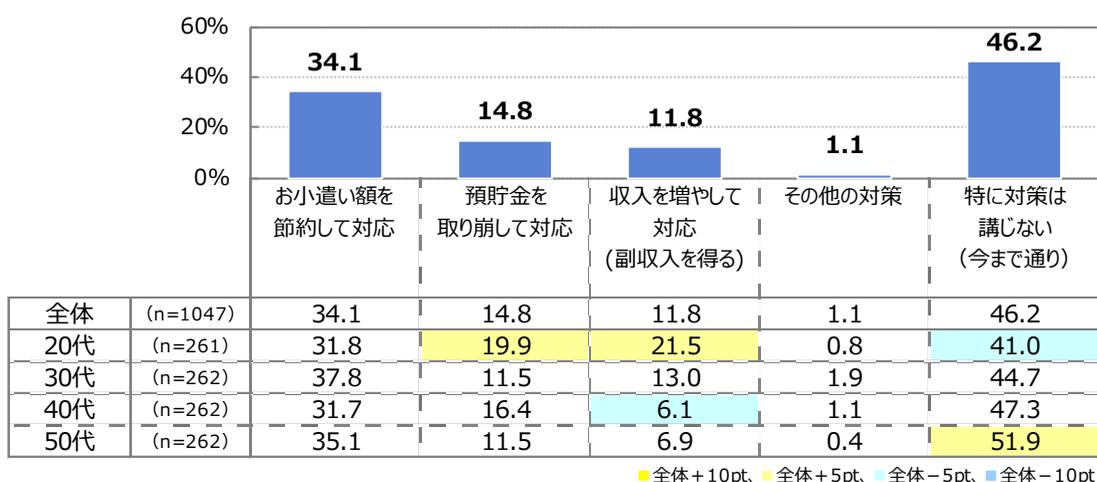
2016年6月現在、2017年4月に予定されていた消費税10%への増税が2019年10月まで再延期になりましたが、増税後のお小遣いへの負担はどう変わっていくのでしょうか。

男性会社員について、10%に増税後のお小遣いへの負担増の軽減策は、「特に対策は講じない(今まで通り)」が最も高くなっています。年代別にみると、若年の方ほど「収入を増やして対応(副収入を得る)」、年配の方ほど「特に対策は講じない(今まで通り)」が高い傾向がみられます。

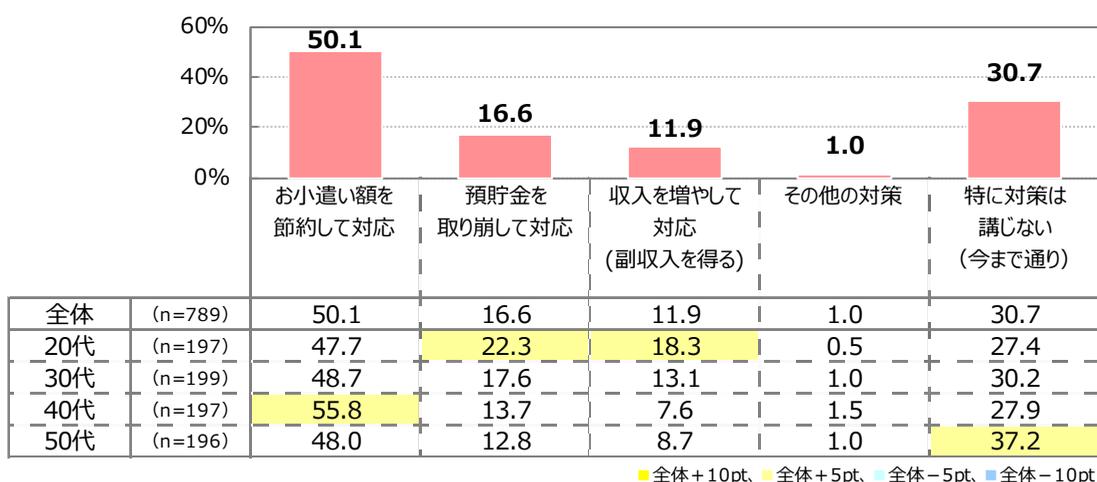
一方、女性会社員では、「お小遣い額を節約して対応」が最も高くなっています。年代別にみると、20代は「預貯金を取り崩して対応」、「収入を増やして対応(副収入を得る)」、40代は「お小遣い額を節約して対応」の割合が高い傾向がみられます。

設問：2017年4月の消費税10%への再増税について議論されていますが、もし増税が決定した場合、その後の“お小遣い”への負担増をどのように軽減(対策)しますか？

男性会社員



女性会社員



※調査実施時(2016年4月)には10%への増税の再延期は確定していなかったため、「2017年4月の消費税10%への再増税について議論されていますが」と質問しています

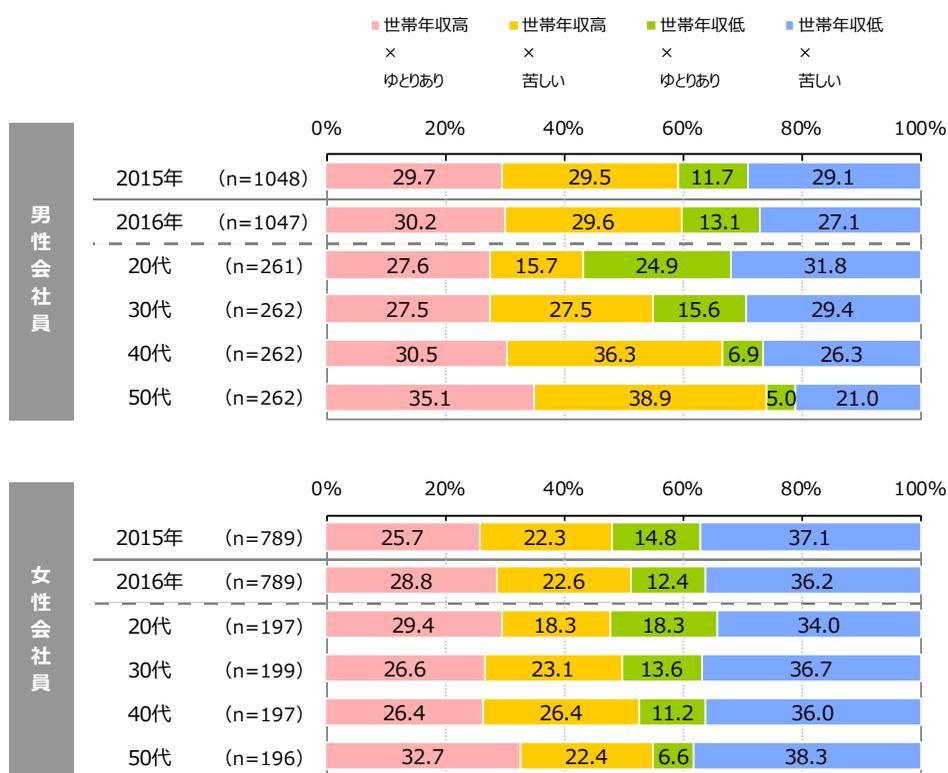
■ 経済的なゆとり

『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認します。『世帯年収』は、500万円以上を“高”、500万円未満を“低”と定義し、『日常生活のゆとり』は、「大いにゆとりがある」+「まあまあゆとりがある」を“ゆとりあり”、「大変苦しい」+「やや苦しい」を“苦しい”と定義します。それぞれを掛け合わせ、経済的なゆとりにおいて、4層のグループを作成しました。

男性会社員では、昨年同様「世帯年収低×ゆとりあり」層が13.1%と最も少なく、他3層はいずれも3割程度を占めています。年代別にみると、20代において「世帯年収低×ゆとりあり」層が24.9%と、他の年代よりも高くなっています。未婚率の高い20代は、世帯年収が低くても、ある程度ゆとりを持って生活できていることがわかります。一方で、年代が上がるほど、「世帯年収高×苦しい」の割合が高くなっている点が特徴的です。

女性会社員では、「世帯年収低×苦しい」が36.2%とボリュームゾーンになっており、男性会社員に比べて生活逼迫感を感じている層が多いのが特徴的です。年代別にみると、男性会社員ほどの違いはみられませんが、若年の方ほど「世帯年収低×ゆとりあり」が多くなっています。

設問：“お小遣い”面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？

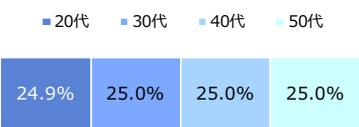
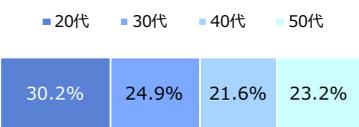
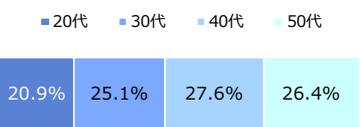
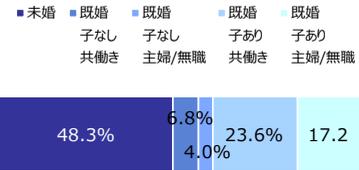


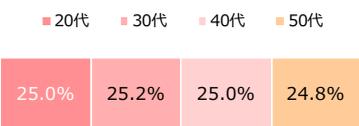
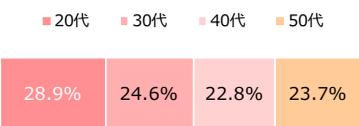
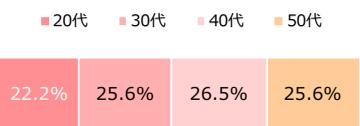
■ ゆとりがある層／ない層のプロファイル比較

また、お小遣い面からみて、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」を、会社員全体と比較したものを次頁に掲載します。これから、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」がどのような方なのかを確認します。

男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代がやや多く、若年層寄りの傾向がみられます。また、全体に比べて、個人年収は51万円、世帯年収では100万円近く高い結果となり、収入自体の多さがわかります。一方、「ゆとりがない層」は、40代・50代がやや多く、個人年収・世帯年収ともに、全体よりも低い結果でした。

女性会社員の「ゆとりがある層」も、男性会社員同様、20代がやや多く、個人年収、世帯年収ともに高い結果となっています。

	男性会社員 全体 (n=1047)	ゆとりがある層 (n=453)	ゆとりがない層 (n=594)
年齢			
年収	個人年収 506 万円 世帯年収 647 万円	個人年収 557 万円 世帯年収 735 万円	個人年収 466 万円 世帯年収 580 万円
家族構成			

	女性会社員 全体 (n=789)	ゆとりがある層 (n=325)	ゆとりがない層 (n=464)
年齢			
年収	個人年収 313 万円 世帯年収 583 万円	個人年収 375 万円 世帯年収 738 万円	個人年収 270 万円 世帯年収 474 万円
家族構成			

【5】お小遣いの使いみち、やりくり術

- ▶ お小遣いの使いみちトップ3は、男性会社員は「昼食代」が50.5%、「趣味の費用」が29.2%、「嗜好品代」が29.1%。女性会社員は「身だしなみのための費用」が48.2%、「昼食代」が44.9%、「ファッション費用」が38.3%
- ▶ 男性会社員の78.9%、女性会社員の89.7%がお小遣い面で何らかのやりくりを実施しており、具体的なやりくり術は男女ともに「昼食費を安くする」がトップ
- ▶ 男女とも2割弱は副収入があり、1か月あたりの副収入額が男性会社員で平均38,463円に対し、女性会社員は平均21,409円と金額に2万円近く開きがある

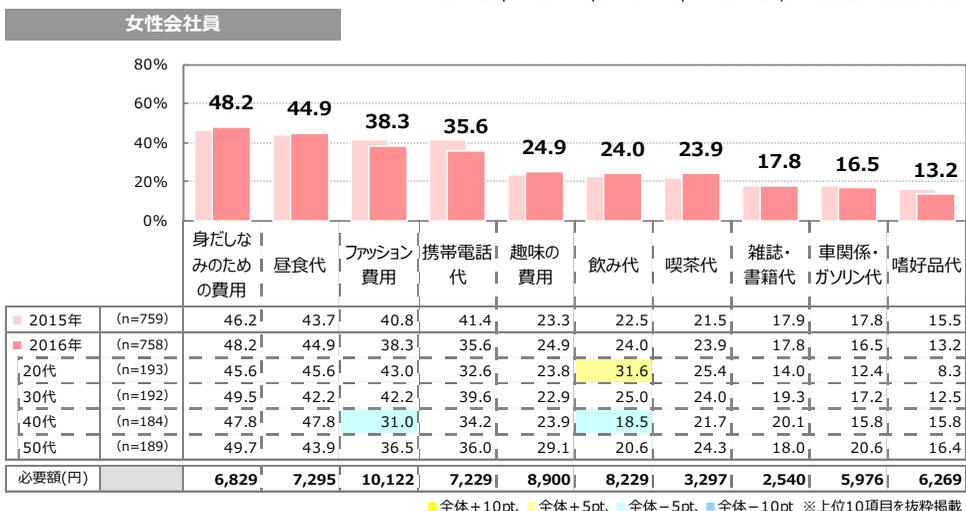
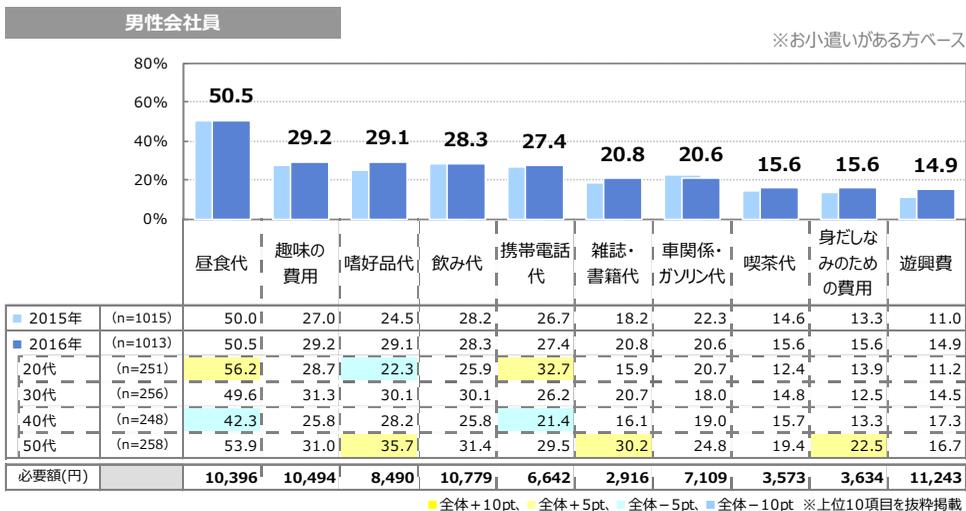
■ 必要不可欠な使いみちと必要額(月額)

お小遣いの使いみちとして必要不可欠な項目を、上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が他項目に比べて20%以上高く、昨年同様トップとなりました。「昼食代」の必要額は平均10,396円です。なお、必要額が最も高い項目は、必要不可欠な項目順位としては10番目に高い「遊興費」となっています。また、昨年に比べると、「趣味の費用」、「嗜好品代」の項目順位が上がっています。

女性会社員では、昨年同様「身だしなみのための費用」が48.2%で最も高く、以下「昼食代」、「ファッション費用」、「携帯電話代」が続きます。必要額が最も高いのは、「ファッション費用」で10,122円という結果となりました。

設問：あなたの“お小遣い”の使いみちとして、必要不可欠なものは何ですか？
また、その項目の月々に必要な金額をお答えください。



■ お小遣いのやりくりと節約術

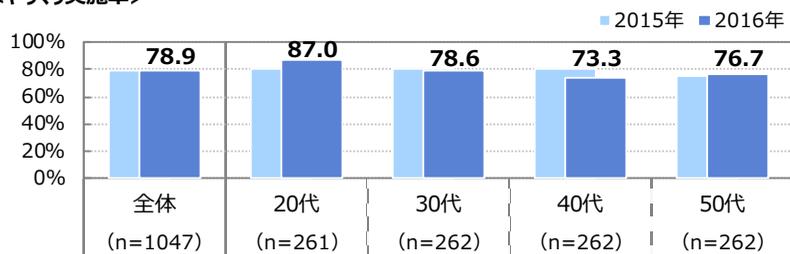
男性社員における、お小遣いのやりくり実施率は78.9%と、比較的多くの方が、何かしらの節約策を実行されていることがわかります。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「外で飲む回数を減らす」、「弁当を持参する」などが上位に挙げられます。また、すべての年代に共通して「昼食費を安くする」が最も高くなっています。

女性社員におけるやりくり実施率は、男性よりも10%近く高く、ほとんどの方が節約策を実行しています。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「弁当を持参する」、「水筒を持参する」といった、オフィスでの飲食に関する節約策が上位に挙げられます。また男性社員と比べて洋服・靴に関する項目が上位に挙がる点が特徴的です。

設問：あなたは、「お小遣い」面でみて、ここ最近、やりくりをしていることがありますか。

男性社員

<やりくり実施率>



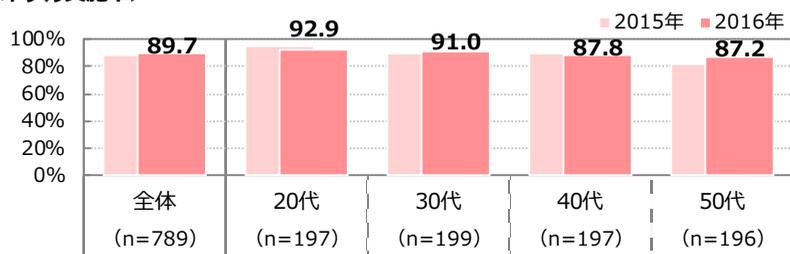
具体的なやりくり術

	1位	2位	3位	4位	5位
昼食費を安くする	36.9	44.8	33.6	32.4	36.6
外で飲む回数を減らす	27.2	30.3	26.0	24.4	28.2
弁当を持参する	23.3	26.1	26.7	22.1	18.3
衝動買いをしない	23.2	21.8	26.3	21.4	23.3
水筒を持参する	20.9	21.1	21.8	20.6	20.2
少し遠くても歩く	19.8	24.9	14.5	19.8	19.8
価格が安いものを買う	18.1	16.1	19.5	19.1	17.9
タクシーなどに乗らない	17.9	18.4	16.0	20.2	16.8

※上位8項目を抜粋掲載

女性社員

<やりくり実施率>



具体的なやりくり術

	1位	2位	3位	4位	5位
昼食費を安くする	45.4	46.7	48.7	42.6	43.4
弁当を持参する	44.0	48.7	44.7	38.6	43.9
水筒を持参する	35.9	33.0	41.2	36.5	32.7
衝動買いをしない	35.0	32.0	33.7	38.6	35.7
洋服・靴は安いものを買う	33.0	36.0	35.7	34.0	26.0
洋服・靴などを買わない	27.6	28.4	28.1	25.4	28.6
美容院などの回数を減らす	25.9	25.4	30.7	24.4	23.0
価格が安いものを買う	25.3	19.8	26.6	31.0	24.0

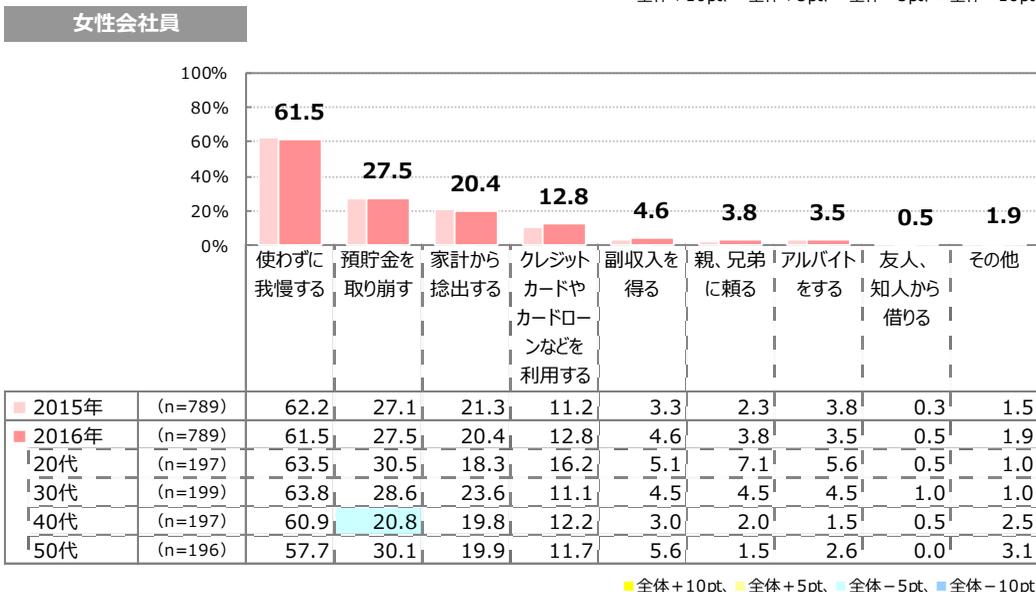
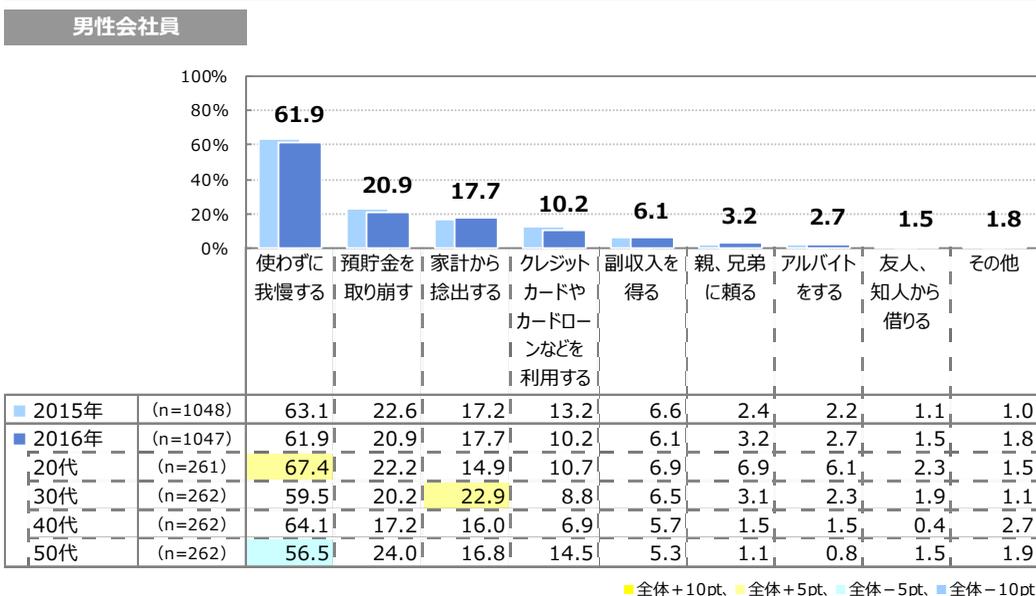
※上位8項目を抜粋掲載

■ お小遣い不足時の対応

男性社員における、お小遣い不足時の対応では、「使わずに我慢する」が61.9%を超え突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」といった、手持ちのお金で対応するケースが多いようです。年代別にみると、「使わずに我慢する」は、若年ほど高い傾向がみられ、20代では67.4%と、50代よりも10%以上高くなっています。

女性社員においても、男性社員と同様に、「使わずに我慢する」が61.5%と突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続く点は共通していますが、いずれも男性に比べてやや高い傾向がみられ、女性の方が“今あるもので何とかしよう”という意識が強いことが推察できます。

設問：“お小遣い”が足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？



■ 副収入事情

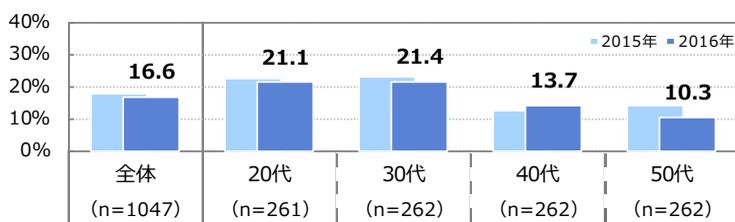
男性会社員の16.6%は副収入があり、1ヵ月あたりにおおよそ3万円後半の収入額となっています。その収入源は、「ポイント・アンケートサイト」が55.2%と最も多く、その他「アルバイト・副業」、「株式投資」などが続きます。年代別にみると、20代・30代はそれぞれ21.1%、21.4%が副収入を得ており、40代・50代に比べてやや高めとなっています。ただし、副収入額をみると、20代・30代よりも、40代・50代の方が高くなっており、40代・50代において「株式投資」、「不動産投資」の割合が多いことが起因していると推測できます。

女性会社員も、男性会社員とほぼ同様の傾向ですが、収入源における「ポイント・アンケートサイト」の割合が71.0%と高い点が特徴的です。また、男性会社員と比較して副収入額は低い傾向にあります。

設問：あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？
どのような方法で副収入を得ていますか？

男性会社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源 ※副収入がある方ベース

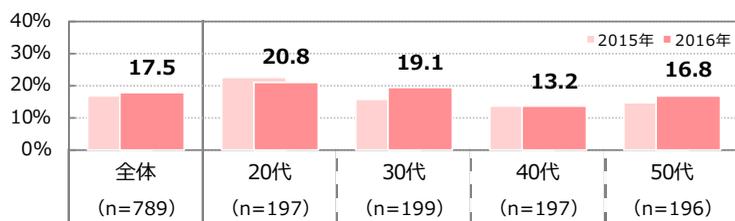
	(n=173)	(n=55)	(n=55)	(n=36)	(n=27)
1ヶ月当たりの副収入額	38,463円	22,193円	17,309円	60,751円	84,982円

収入源	割合 (%)				
	2015年	2016年	2015年	2016年	2015年
ポイント・アンケートサイト	55.2	60.0	75.0	25.0	44.4
アルバイト・副業	21.8	29.1	12.5	33.3	11.1
株式投資	20.7	14.5	17.9	27.8	29.6
不動産投資	10.3	5.5	5.4	16.7	22.2
ネットオークション	10.3	10.9	8.9	11.1	11.1
FX等の外国為替取引	8.0	14.5	5.4	5.6	3.7
ブログ、HP開設の広告収入	6.9	10.9	8.9	-	3.7
ギャンブル	6.3	7.3	8.9	-	7.4

1位 2位 3位 4位 5位 ※上位8項目を抜粋

女性会社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源 ※副収入がある方ベース

	(n=135)	(n=41)	(n=38)	(n=23)	(n=33)
1ヶ月当たりの副収入額	21,409円	9,098円	12,211円	19,196円	48,839円

収入源	割合 (%)				
	2015年	2016年	2015年	2016年	2015年
ポイント・アンケートサイト	71.0	80.5	76.3	65.4	57.6
アルバイト・副業	26.1	17.1	18.4	46.2	30.3
ネットオークション	12.3	14.6	15.8	3.8	12.1
株式投資	10.1	2.4	18.4	3.8	15.2
フリママーケット	10.1	14.6	13.2	3.8	6.1
懸賞	5.8	7.3	7.9	-	6.1
不動産投資	5.1	2.4	-	11.5	9.1
ブログ、HP開設の広告収入	3.6	4.9	7.9	-	-

1位 2位 3位 4位 5位 ※上位8項目を抜粋

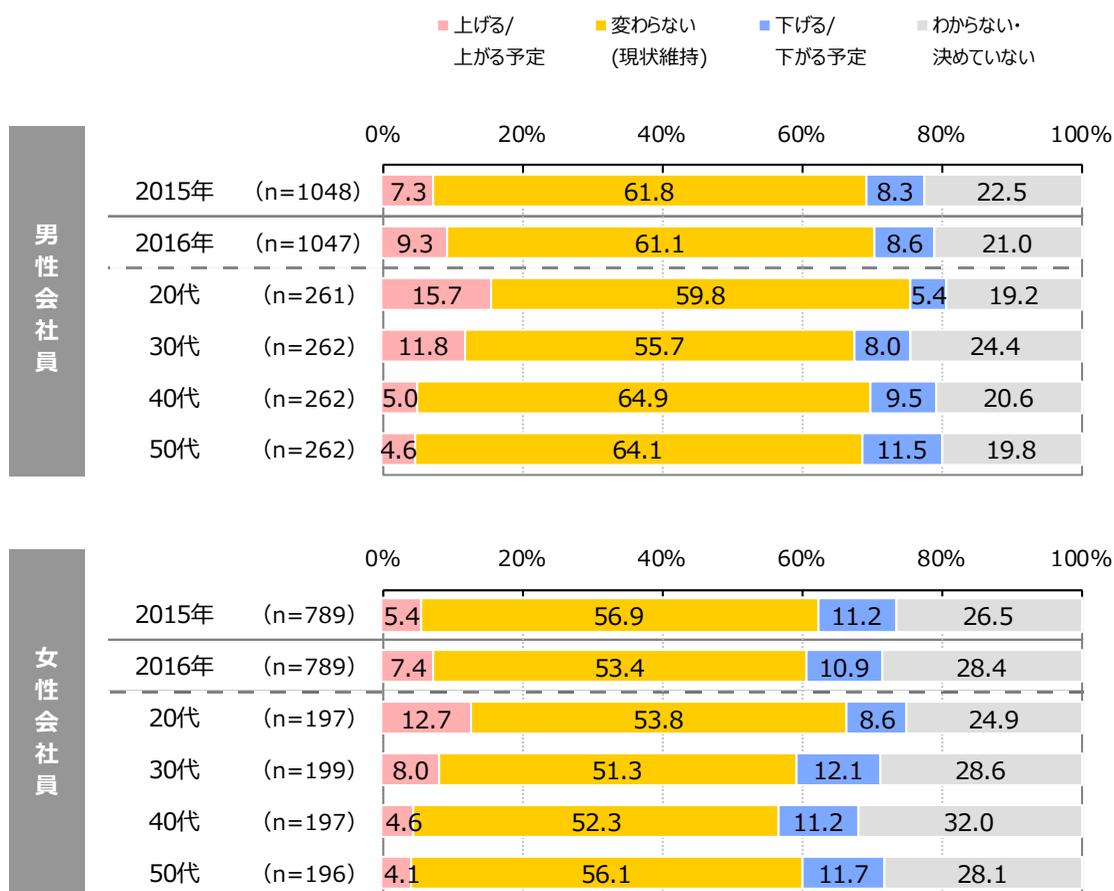
※n=30未満は参考値として掲載

■ お小遣いアップの可能性

男性社員における、今後のお小遣い額の予定は、「変わらない(現状維持)」が61.1%を占めます。「上げる/上がる予定」は9.3%、「下げる/下がる予定」は8.6%と、いずれも1割を下回り、変動がある層は限定的です。年代別にみると、若年の方ほど「上げる/上がる予定」、年配の方ほど「下げる/下がる予定」が高くなる傾向にあります。

女性社員も、男性社員とほぼ同様の傾向で、変動のある層は限定的です。ただし、30代以降では、「下げる/下がる予定」が同水準となっています。

設問：あなたの“お小遣い”は、今後アップする可能性がありますか？



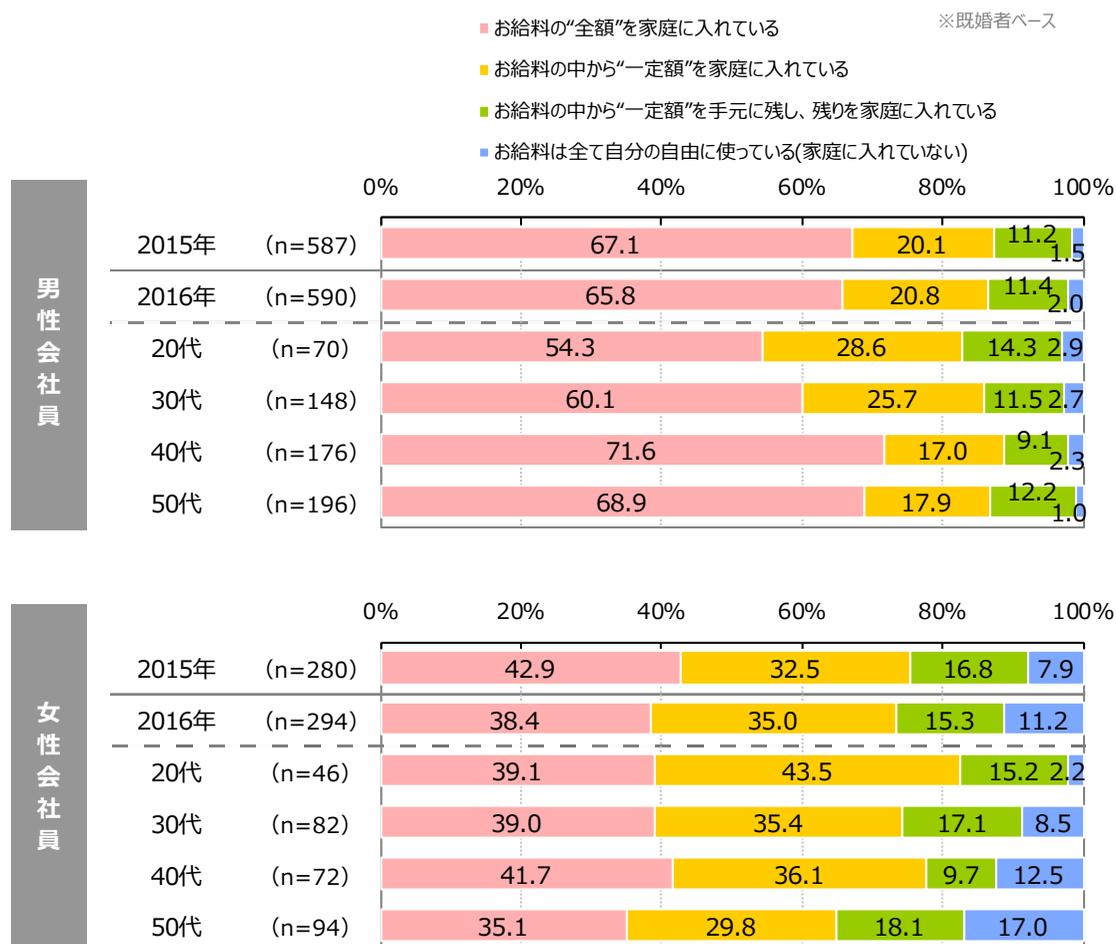
【6】サラリーマンの給与管理状況

- 既婚男性会社員の3人に2人が「お給料の“全額”を家庭に入れている」と回答。20代は他世代に比べて低くはあるが、若い世代にもお小遣い制が浸透しているという結果に
- DINKS世帯でも、給与の全額を家庭に入れている男性会社員の割合が5割近くと、ライフステージに関係なく、お小遣い制をとる世帯が多数派
- 女性会社員の既婚世帯は、男性社員に比べて全額を家庭に入れる割合が低い

■ 給与管理状況

男性会社員の既婚世帯では、3人に2人(65.8%)が「お給料の“全額”を家庭に入れている」という結果で、多くがお小遣い制であることがわかります。女性社員では、男性に比べて全額を家庭に入れている割合は低く、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」世帯がやや多くなっています。

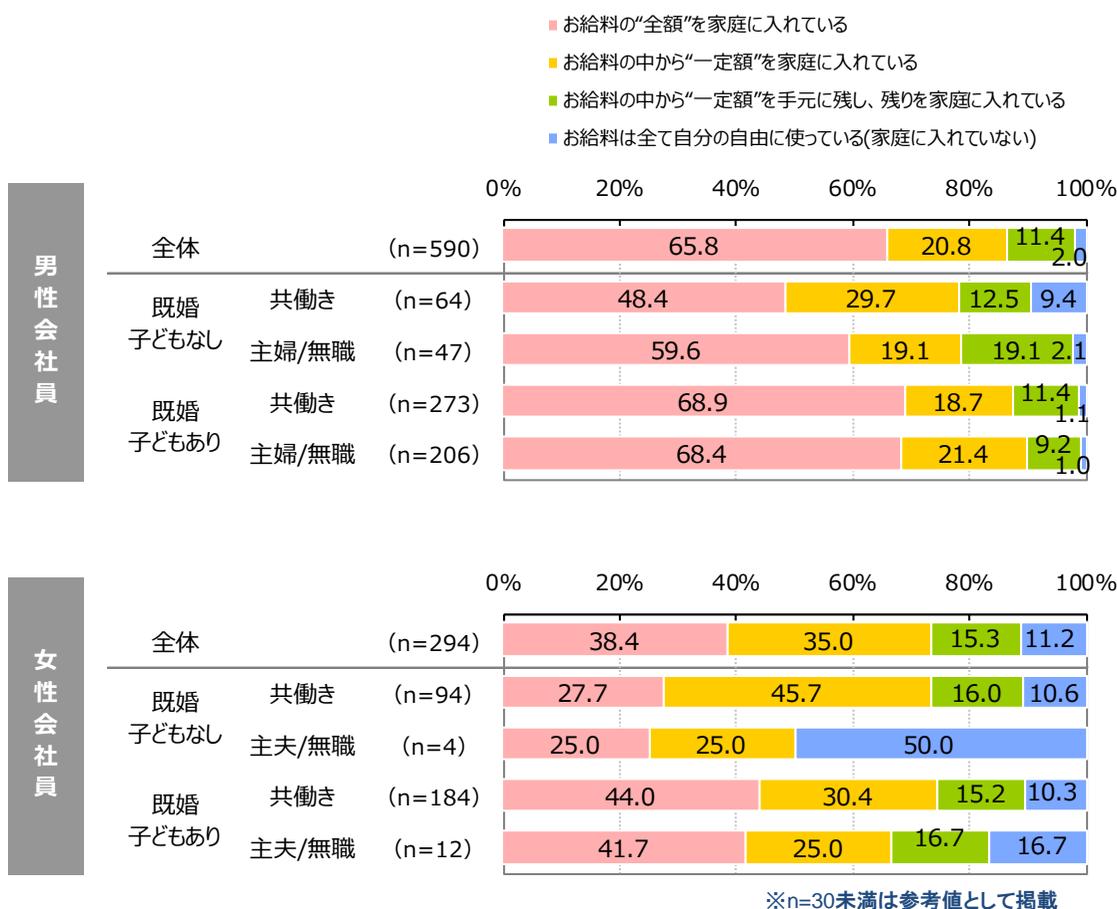
設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。



男性社員の給与管理状況をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」が29.7%を占め、全体よりも高い傾向にあります。また、子どもがいない世帯よりも子どもがいる世帯のほうが、「お給料の”全額”を家庭に入れている」が高くなっています。

女性社員では、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れる」割合がDINKS世帯は45.7%と男性社員DINKS世帯の割合よりも16ptも高い結果となりました。また、男性社員と比較して女性社員は、「お給料は全て自分の自由に使っている(家庭に入っていない)」割合が全体でも1割と高い点の特徴です。

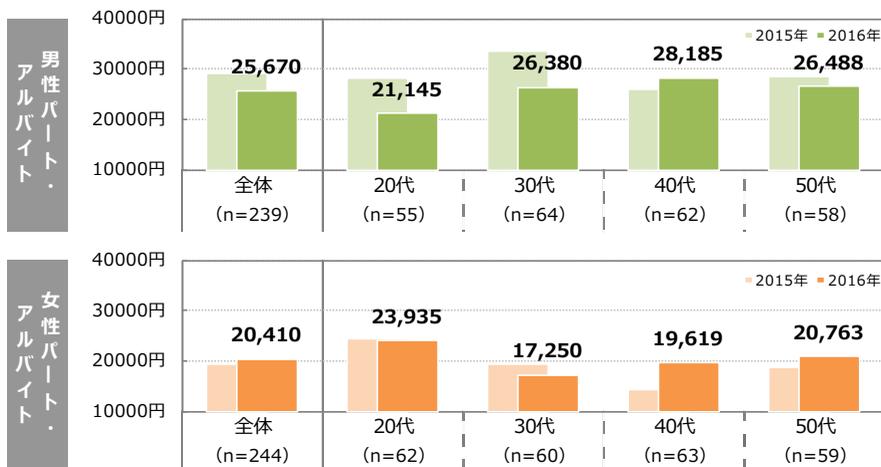
※既婚者ベース



【7】パート・アルバイトの基本データ

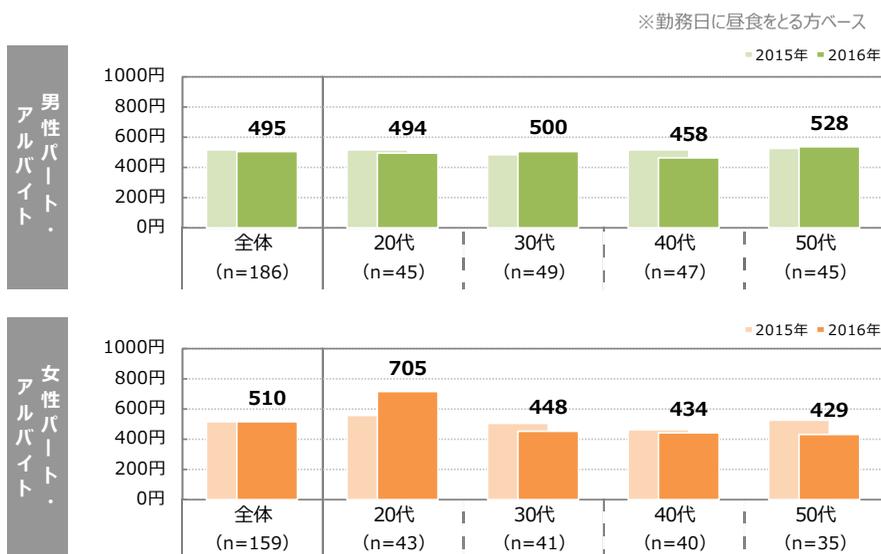
■ お小遣い

1カ月の平均お小遣い額



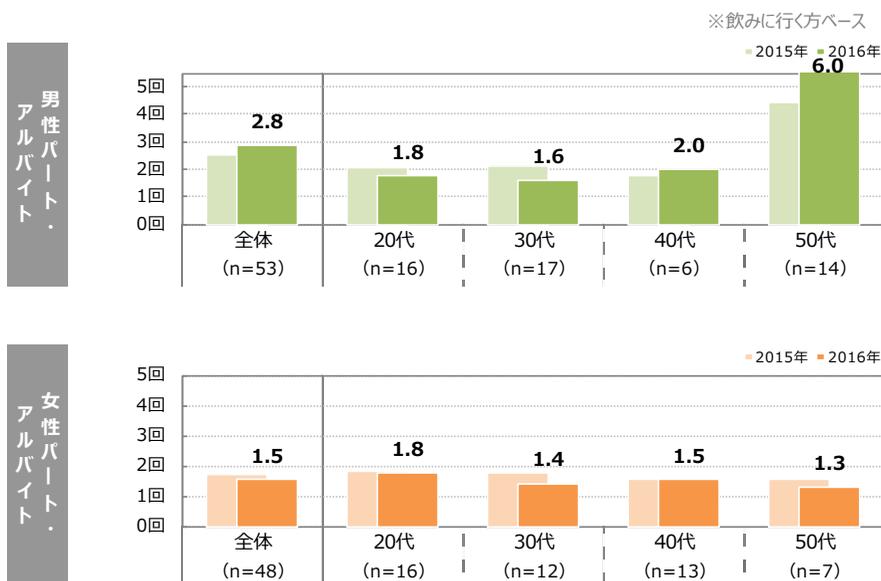
■ 昼食事情

1日の平均昼食代



■ 飲み事情

1カ月の平均飲み回数

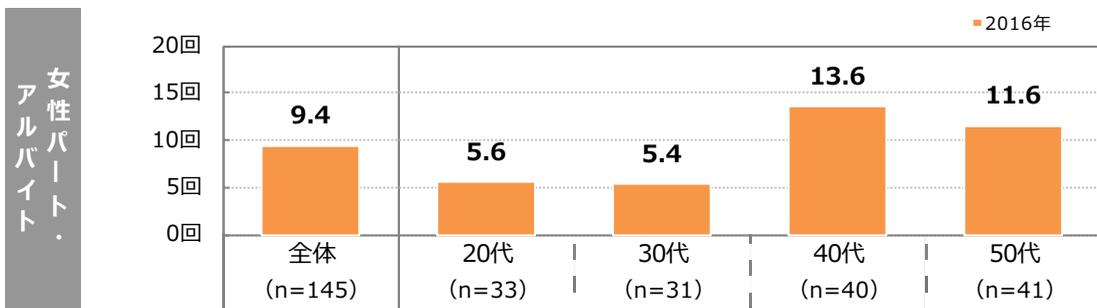
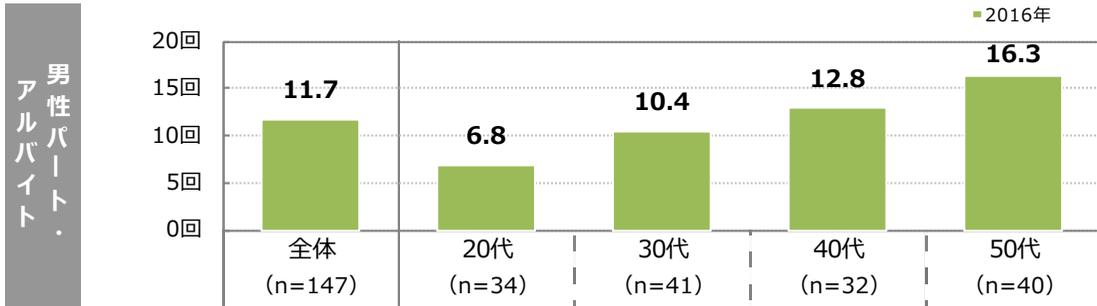


※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1ヵ月の家飲み回数

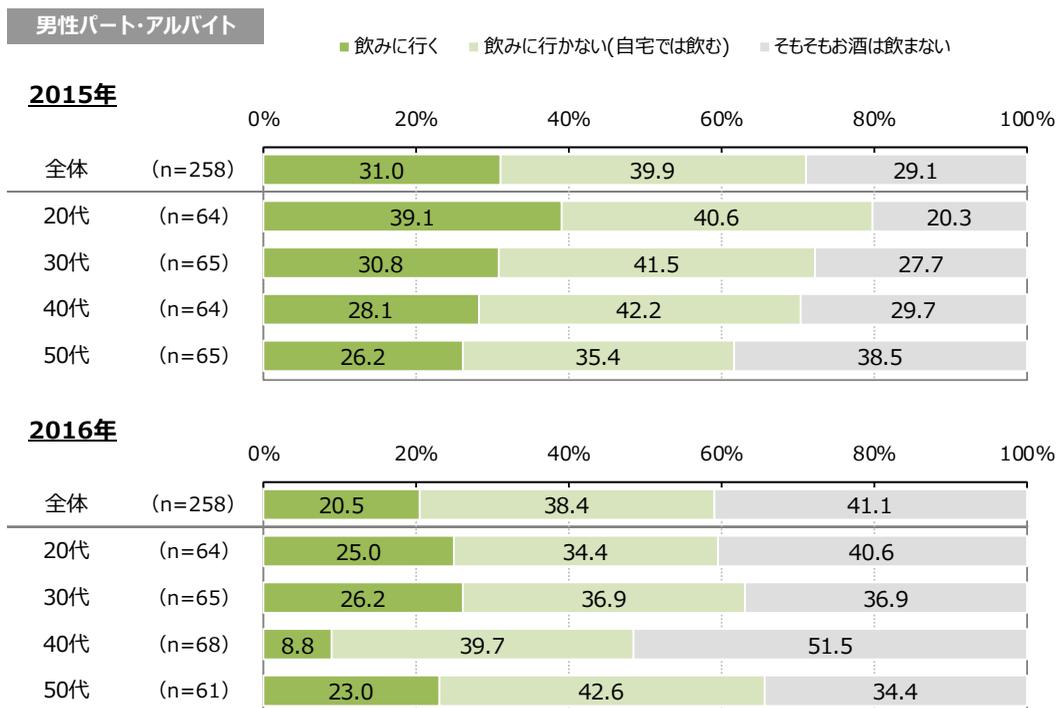
※自宅での飲み方ベース



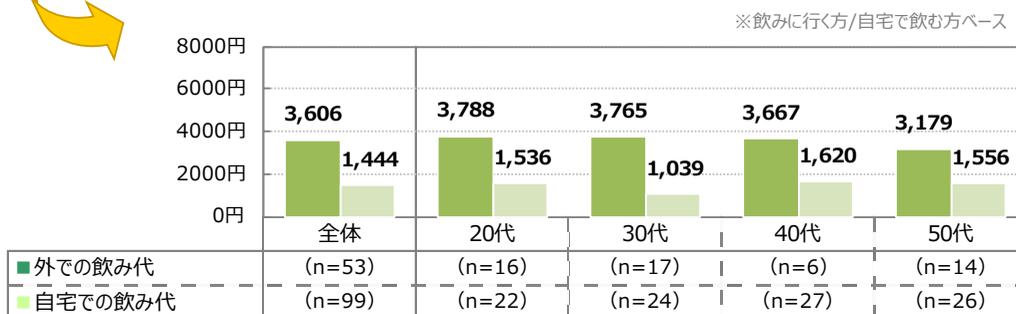
※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



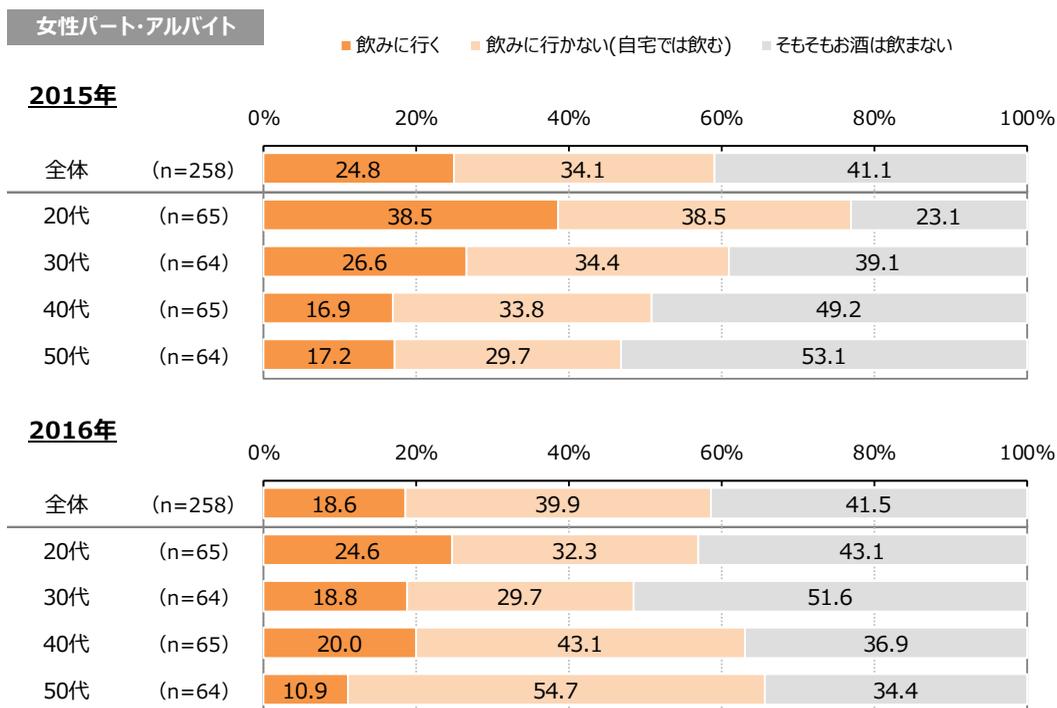
1回の平均飲み代は・・・？



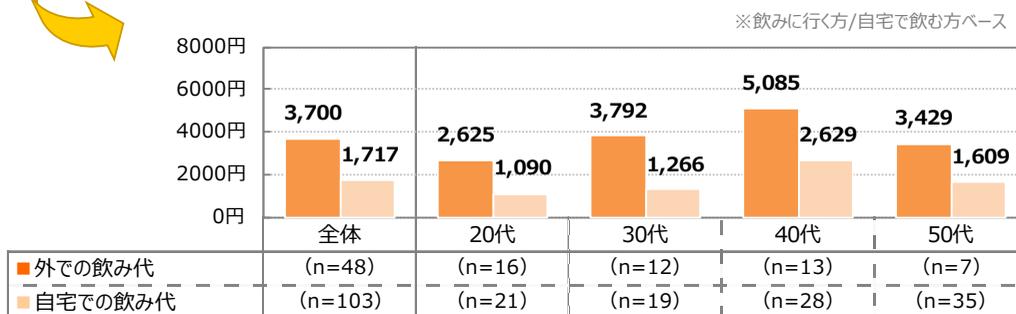
※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



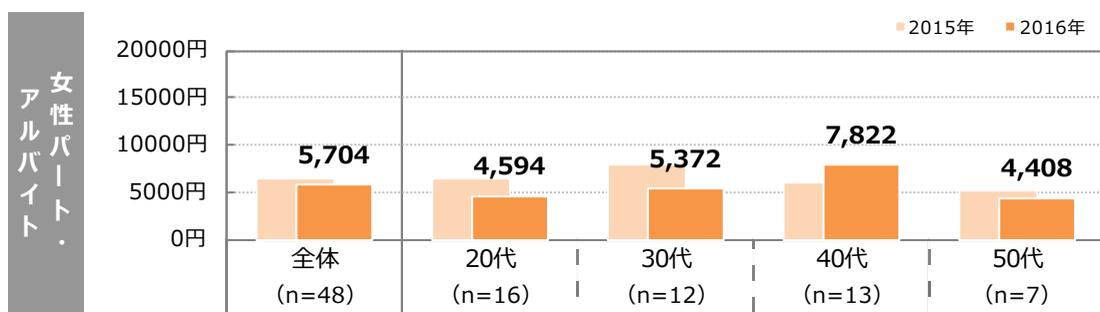
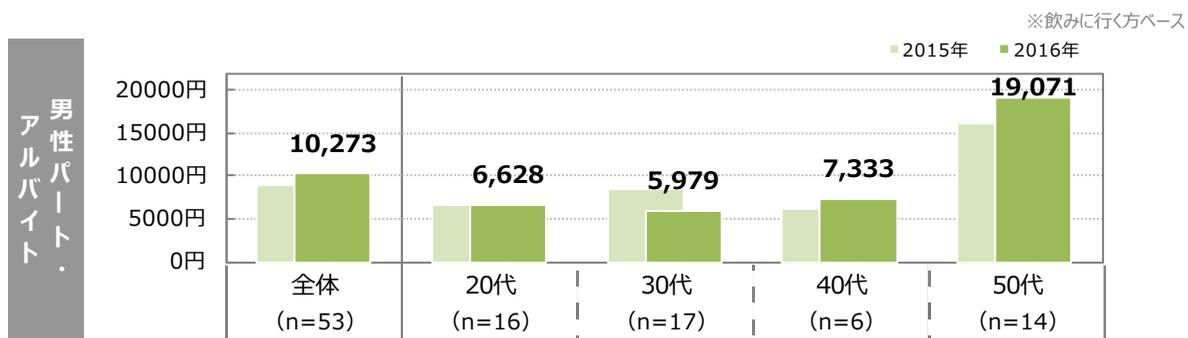
1回の平均飲み代は・・・？



※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1ヵ月の平均飲み代



※n=30未満は参考値として掲載